

特定非営利活動法人

VOL.34

# 南国暮らしの会

2006 年 秋 季 号



平成18年10月21日



NPO法人 南国暮らしの会

# 南国暮らしの会

会報2006年秋季号

## 目次

	(敬称略)	ページ
どうなる！？ これからのロングステイ	No. 163 宮崎 哲郎	1
フィリピン・イロイロ滞在記	No. 740 渡辺 亜雄	4
「夢と冒険の旅」 語学留学編	No. 732 馬場 章介	8
チェンマイ滞在記 および ロング・ステイ考	No.1081 川本 雄二	11
中国人と日本人はどう違うの？	No. 363 赤嶺 良彦	16
バギオ滞在記	No. 77 橋本 郁夫	18
雑感中国	No. 591 神原 克収	21
マレーシア・ロングステイ(その1)準備編	No. 749 山本 義典	25
バリ2週間滞在記	No. 233 佐藤 光豊・恵子	29
特集「私の大きな失敗、小さな失敗」		
飛行機に乗り遅れる？	No. 740 渡辺 亜雄	33
ローマ地下鉄でスリに遭う	No. 60 渡辺 義郎	33
セブ島「コロナ事件」の教訓	(匿名)	35
「平澤 信 世界を旅する」 モロッコ編(その一)	No. 40 平澤 信	37
お役立ち情報シリーズ		
チェンマイにおける住居探しについて	No. 54 山口 洋二	41
バギオ宿泊情報	No. 227 齋木 一	43
フィリピン セブより	No. 636 鶴岡 照郎	44
ダバオのホテル情報	No. 341 平野 雅一	45
フィリピン・イロイロのホテル情報	No. 740 渡辺 亜雄	46
ハワイコンドミニアム情報	No. 712 高田 勝弘	47
タイ チェンマイで年金ビザ取得情報	No. 6 石川 綏夫	48
	No.1008 田中 美子	
支部便り		49
メーリングリスト ミニ情報 (ギマラス島沖重油流出被害の件-2)		54
友好団体紹介コーナ		55
寄付のお知らせ		55
部会伝言板		56
編集後記		57
セミナー開催のお知らせ		58

# どうなる！？ これからのロングステイ

雑誌「ラシン」掲載記事から転載

雑誌「羅針」(2006夏号 vol.13)に掲載された宮崎理事長とワールドステイクラブ岡安会長との対談です。発行元のイカロス出版株式会社の承諾を得て転載致します。(編集)

ロングステイという言葉は過去数年の間に、すっかり世間に定着した感がある。しかし、ロングステイ人口の増加に伴い、長期滞在の捉え方や滞在スタイルが多様化してきたのも事実。そこで「南国暮らしの会」の宮崎哲郎さんと「ワールドステイクラブ」の岡安恭子さんに今後のロングステイについて、それぞれのクラブの実情を踏まえた展望を語っていただいた。

## ロングステイの最近の傾向は？

- 「羅針」編集部ではロングステイを「移住派」、「ライト派」、「渡り鳥派」と3つのカテゴリーに分けています。移住派はビザと不動産を取得して、海外に居住する方、渡り鳥派は国内を含めいろいろな国や地域を転々とする方。ライト派は欧米流のパケーションスタイルで、2週間から1か月の長期旅行をする方です。それぞれのクラブにおいて今後、ロングステイはどのようなトレンドになるとお考えですか？

岡安： その分け方だと、「南国暮らしの会」の方は移住派、「ワールドステイクラブ」は渡り鳥派となりますね。うちのクラブは、ロングステイにこだわらず、旅行も勉強もボランティアも楽しみたいという人が多いので、ビザを取得しての長期滞在はあまりすすめていません。日本語を教えるボランティアのために3か月滞在する方もいますが、多くは1か月くらいの滞在です。それと私たちの場合は、個人ではなくグループで動くのも特長です。

宮崎： 私たちの会は名前に「暮らし」という

文字が入っている通り、移住をベースにした会ですが、移住派だけでなく、渡り鳥派も多いと思います。またペナンは移住派の集まり、チェンマイは渡り鳥派の集まりという風によって、棲み分けも進んでいます。日本人がロングステイしやすい街を調べていくと、ペナン、チェンマイ、KL(クアラルンプール)、バンコクなど、行き先がだんだん絞られてくるのも事実です。

岡安： それだけ、これらの街は受け入れ態勢が整っているということですよ。

宮崎： もともとチェンマイは、欧米人が開発したロングステイ地ですから、条件は整っています。ただペナンは日本人が飽和状態になりつつあり、KLに移る人が出てきました。今後のトレンドとしては、ロングステイが広がりを見せることで、今とは違う街に人々が移動することも起こりえます。でも、日本人がいない街では困るし、いすぎても困るというわけで、住める街はまだ限られますね。

- 人気のある街も変わっていくと。

宮崎： ええ。日本人が増えすぎると今後、ビザの値上げや条件の引き上げも予想されます。私は「南国暮らしの会」の活動をしていて、おこがましくも、よその国の地域に人を送るようなことをしているのかと考えることがありますよ。私はフィリピンのダバオに日本人を送りたいと、かねてから思っているのですが、もし日本人が増えれば、コンドミニアムは増えるだろうけど、それが現地にとっていいこととは限らないですよ。ですから会としてそうした活動はしていません。

岡安： 私はコタキナバルに長年通っていますが、コタキナバルでも日本人が確実に増えています。旅行業者や土産屋、観光PRを望む州政府

はよろこんでいるようですが、地元の人が本当に外国人を歓迎しているのかわかりたいところですね。コタキナバルがあるサバ州には少数民族がたくさん住んでいますので、外国人が増えることで、彼らの文化が変わる可能性もあります。また物価が上がり、犯罪が増えることも考えられます。その意味でも、我々はなにか滞在先の地元へ貢献するような活動をして、「日本人に来てもらってよかった」と地元の人に思ってもらえる努力をしなくては、と思っています。



### 団塊の世代はどう動く？

- 2007年から、団塊の世代が定年を迎えます、ロングステイにおいては、どんな動きが出てくるのでしょうか？

**岡安：** 団塊の世代のロングステイというのがマスコミや新聞で取りあげられていて、表現は悪いですが、マスコミ先行のような感じがしますね。「今、ロングステイしないと時代遅れ」みたいな雰囲気まで感じます。

**宮崎：** 実は、調べてみて驚いたのですが、いつの間にか、うちの会員の3分の1が、団塊世代になっていたんです。会としては、まだ彼らのニーズを理解できていない状態ですが、一般的には「流行に流されやすい」、「責任を取ることを好まない」という特徴を耳にしますよね。私自身も団塊の世代の方たちと話をしてみて、そういう印象を受けることがあります。海外で何をするという具体的な計画がない人や、とりあえず海外で安く住もうという人が増えていて、住んでみたら失敗した、帰りたい、契約を取り消したい、なんて話がやたら多い。

**岡安：** 私も、はじめての下見旅行なのに「気に入ったから、ここに家を買いたい」と即決してしまう人に会ったことがあります。

**宮崎：** 年金がもらえるまでとりあえず海外に行きたいという方もいました。会としても、そういう方たちにどう対応していくか、という課

題を抱えています。それに、自立してない人も多いでしょう？ 財布はすべて奥様が持っていて、自分のパンツの場所もわからないような男性は多いです。

**岡安：** 女性にしてみれば、夫を置いて海外に行き、そういう生活から抜け出したいと思っている人は多いと思います。マスコミではご夫婦のロングステイばかり取り上げますが、私自身は夫婦でなくてもグループとかお友だち同士でよいと思っています。

**宮崎：** 私もいつもひとりで出かけます。別に夫婦でなければ、と考えることはないですね。

**岡安：** 話は変わりますが、本当に団塊の世代にロングステイや移住をする余裕のある人が大勢いらっしゃるのでしょうか。あこがれとしてロングステイを考えている人が多いのでは？ と思います。現実には、経済的に将来の不安を感じている人は多いと思いますし、子供にお金がかかったり、両親の介護の問題を抱えている世代だと思います。

**宮崎：** ええ楽ではないと思います。先日、私が話した方は59歳でしたが、彼が60歳になって受給できる年金は、年間40万円程度ということでした。この方はよく準備をしていて、企業年金と個人年金も受け取れるそうですが、それでも貯金を崩さないといけないそうです。もし60歳から年金をもらうと、65歳からの年金受給額も減りますから、生活防衛のために海外に出るというケースはあるでしょうね。65歳まで働いて、海外に行くか、あるいは貯金を崩しながら60歳で海外に出るか。彼らがこの

5年をどう考えるか、だと思えます。

**岡安：** でも、経済的な理由だけで日本を離れるのであれば、海外生活も楽しくないと思えますよ。アジアで節約するというのは、何もしないということになりますから、自己実現にもつながらない。先ほど宮崎さんがいわれたように、ロングステイには海外で何をするか計画を立てることが大事だと思います。それと、踊りや折り紙など、現地の人と楽しめる一芸があるといいと私は思います。今、会のなかに、コタキナバルに行っている人たちがいるのですが、日本の伝統的な遊びを伝えるフェスティバルを開こうと予定しています。そういう計画があると、それ自体が滞在の目的になっていくし、目的があれば継続もできますよね。

## ロングステイに向かない人とは？

### - ロングステイに向かない人とは？

**宮崎：** まず物事をネガティブに考えすぎる人は向いていません。自分の生き様というか、どう人生を過ごしてきたかが反映します。

**岡安：** あと、英語を学ぼうとしない人ですね。それから相手や仲間を思いやれず、わがままになってしまう人も向いてないと思えます

**宮崎：** 現地に住む場合は、現地の人と上手くやれない人は難しいです。たとえば、人々が時間にルーズな国もありますが、そういうことにすぐ腹を立てる人は向かない。寛容さを持ってないとストレスが増えます。

**岡安：** あと、日本は東南アジアより文化的に優れていると錯覚する人が多いですね。自戒を含めて思いますが、現地の文化を受け入れることは大切です。

**宮崎：** それから日本人どうしの付き合いのなかで、嫌なヤツにならないことも大事です。たとえ嫌な人がいてもあいさつくらいはして、自分の世界を狭くしないことです。

### - 今、問題になっていることはありますか？

**宮崎：** ロングステイをしている人に国際性がないこと、でしょうか。海外に住んでいるのに

現地の言葉を勉強しない、現地の人と話をしない。ただゴルフやって、遊んでいるだけ。それでは国際的とはいえません。

**岡安：** 私たちもその辺りをもっと考えたいですね。特にロングステイを言葉の問題抜きに考えることはできません。語学を学ぶこと自体面白いですし、現地のこともしっかり知ってほしいです。日本の文化を披露すると同時に、向こうの文化を学べば、とてもいいと思えます。

**宮崎：** 私は、国際性というのは海外に住むことではなくて、いろんなことを知って、それに対応していくことだと思います。日本のことも、相手の国のことも、違う国のことも勉強して、いろんな知識をベースにおいて、何かを判断できるのがベストだと思います。そういうことを啓蒙して行くのも、我々の会としての役割でしょうね。

**岡安：** ええ事前の勉強、事前の経験がなければ、いい滞在はできません。サークルに入れば、そうしたチャンスが増えます。

### - 最後に、それぞれのクラブにとってロングステイとは何なのか、定義づけをお願いします。

**宮崎：** 定義となると難しくなりますが、「定年などによりできた自由な時間で、日本ではできないような異文化体験をし、海外において楽しい生活を実現する長期の滞在生活である。それと共に、人生が豊かになることをめざす」という位置づけでしょうか。60歳でも70歳でも、人生を豊かにしていくという姿勢が大事です。それ自体が長期の滞在をする目的になりますし、外国はそれができる場所でもある、と私は考えています。ある有名な大学教授の話に「かきくけこの世界」というのがあります。「感動」、「興味」、「工夫」、「健康」、「恋（ときめき）」の頭文字をとったもので、これがあればボケないという話ですが、外国に行くと、そういうものが一挙に得られます。

**岡安：** おっしゃる通りです。ワールドステイクラブでは、「海外で創ろうシニアの生きがい」というスローガンがあります。ロングステイもこの一語に尽きると思えます。

# フィリピン・イロイロ滞在記

関東支部 No.740 渡辺 亜雄

## はじめに

よく会員の方から「イロイロ」ってどんな所と聞かれます。私もこの地を知ったのはインターネットからでした。

定年後、ボランティアでの日本語教師を目指していた私は10年ほど前に「アルク日本語講座NAFL(Nihongo As Foreign Language)」420時間を修了しました。それから何の活動もしておらず、ここでブラッシュアップをして実際に外国人に日本語を教えたいと思っていたところ、イロイロで日本語教師研修なるものがあることを知り出かけました。

## イロイロ

イロイロ市はマニラから南西約450キロ、セブから西北西約250キロに位置するパナイ島にあり、フィリピン第四番目の都市で人口365,820人の漁業と農業を中心とする中規模な町です。

イロイロは観光地ではありませんが、マニラやセブのような喧騒さはなく落ち着いた町で、中心地は古いスペイン調の建物の中に中国風の商店が軒を連ねます。市内に電車・バスはなく、市民の交通手段はジブニー(乗合タクシー)だけで町中を縦横無尽に走っており、あまりの多さに今では公害問題にまで発展しています。

市民は質素ながら清潔な服を着ており、特にSM(大型ショッピングセンター)へ行く時はお洒落をして出かけます。

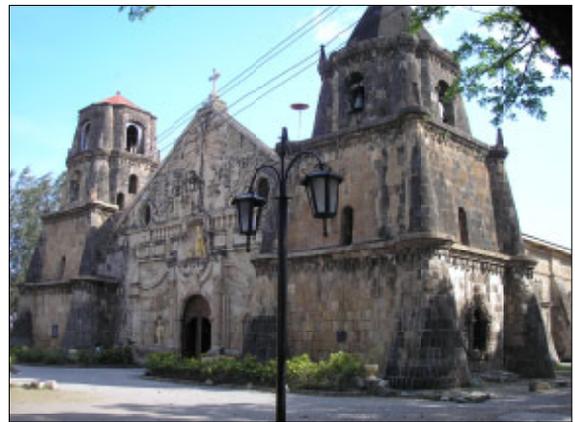
世界遺産で1734年に建てられた「Miag-Ao Church」(要塞風に建てられた教会)があり、一見の価値があります。

ゴルフ場は私の知る限り一ヶ所で、来年2007年に100周年を迎える「Iloilo Golf & Country Club」があります。

フィリピンはまだまだ後進国だなと思うことがいくつかありました。その代表的なのが「停

電」です。私が滞在した5ヶ月で優に20回以上は停電し、パソコンを使っただけで勉強中に電源が切れ、2時間もかけて作成した資料が二度も泡と化しました。

日本から来ていた若いボランティアが「わたし、生まれてから日本で停電を経験したことない！」なんて言ってフィリピン人に噛み付いていました。



<世界遺産Miag-Ao Church>

## 日本語教師研修

この度私がお世話になった所は「LOOB」というフィリピンのNGO法人(代表：小林幸恵さん、現地の男性と結婚した日本人)で、日本人の若者による現地ボランティア活動の支援が基本ですが、国際交流・国際親善の観点から日本語研修や英語研修も並行的に行っています。

日本語研修は、こちらで実際にプロとして教えている先生(日本人)が指導してくれます。ニーズ分析(生徒によって必要性が異なる)から始まってレディネス分析・生徒との面談・シラバスデザイン・カリキュラムデザイン・略案作成・細案作成・授業参観を経て、模擬授業に移ります。

費用は3ヶ月、3食、宿泊全て込みで334,000円ですが、2ヶ月コース(234,000円)、1ヶ月コース(134,000円)もあります。

私は2006年4月から9月まで半年間の予定で行きました。3ヶ月で計画した研修は無事終了、その間も並行してボランティアでレッスンもニクラス持ち、延べ17人のフィリピーノに実践で教えました。フィリピン人の授業態度はとても熱心で、教える側もやり甲斐を覚えました。これまでに経験のない方でもこちらで研修を積めますし、日本語熱は大変旺盛で習いたいという生徒はいくらでもいます。



<私の生徒たち>

写真の学生たちにレッスンを終えたあと、彼らの大学に招かれ感謝状を送られたときは涙が出るほど嬉しかったです。

## 英会話教室

当初、後半の3ヶ月間を介護士学校で教える計画でいましたが、諸般の事情で計画が中止となりました。そこで急遽考えついたのが英会話研修でした。

フィリピン国立大学(イロイロにある分校)の教授による個人レッスンクラスがあるということを知り即決しました。

授業は週3回、1日2時間、5週間(合計30時間)としました。時間帯はフレキシビリティに富んだもので、全面的に私の希望を受け入れてくれました。

授業料は一時間300ペソで、教材費として合計金額(9,000ペソ)の20%に相当する1,800ペソを含み合計10,800ペソ(約23,000円 = 300P × 30HRS + 9,000P × 20%)でした。これらは全て自分で学校に出向いて手配・決定しました。

また、この間3ヶ月の滞在費は約月20,000ペ

ソ(40,000円)の合計120,000円でした。

英語の授業は一对一ですから内容はどのようにでも自分の好きなように運べます。自分が不得手なのは話すことなのか、聞くことなのか、ボキャブラリーなのか等々、希望を出せば何でも受け入れてもらえます。

## 日常生活

こちらでの住まいは三つの選択肢がありました。研修のベースとなる場所が" LOOB " でしたから、現地についてから近くの一軒家とアパート二軒を下見しました。どちらも「帯に短し褌に長し」で、結局" LOOB " の家(個人宅を事務所としている)にお世話になることにしました。四畳半ほどの部屋でクーラーこそありませんがADSLが引かれておりインターネットもスカイプもでき快適でした。

" LOOB " での生活はとてもユニークで、" LOOB " がボランティア団体であることから、日比両国からたくさんのボランティアが集まりますし、またされる人も来ます。ここで「メシ」が食いたければ何かします。掃除とか、洗濯とか、大工とか。そうして彼らは今日の「メシ」にありつけます。ここに集まってくる連中との交流はとても楽しいものでした。

ただ最大の悩みは人間以外の動物と虫でした。出発前に平野さん(元ダバオ支部長)に色々レクチャーを受けて出かけたのですが、それでも鼠・ゴキブリ・ヤモリ・蟻の大群(蠅・蚊の類は言うに及びません)の来訪にはホトホトお手上げでした。ヤモリが夜「キュッ・キュッ」と鳴くのをご存知でしたか。

また悪いことに外の音(日頃耳にしない音)が凄まじく、隣が養鶏場で早朝から晩まで時間に関係なく“コケッココ”の合唱、向う三軒両隣の犬(ここでも三匹飼っている)が吠える声、家のすぐ前にあるコンクリート張りのバスケットボールのコートに叩きつけるボールの音、隣家で朝早と深夜にかかるボリューム最大級の音楽(敵は昼間寝ている)などなど。

また、生活を開始した初日、カルチャーショックを受けました。風呂(バスタブ)がなく、シャ

ワーもなければお湯も出ません。風呂はバケツに汲んだ水を柄杓で掬って頭からぶっかける、それだけ。それでもこれが慣れてくるといかに快適なのはフィリピン人に近づいた証拠？

嬉しかったのは、こちらでは日本人、特に私のような年寄りにはとても親切で、いつも私を最優先に扱ってくれました。



< " LOOB " のスタッフとボランティアたち >

## 食事

三食は来客時、特別のセレモニーなどを除けば全て " LOOB " の家でとりました。フィリピンの家庭料理は簡単に言うと「ぶっかけメシ」(あまり表現がよくありませんが「犬メシ」?)です。スープが基本となり、中身は野菜や果物を中心に、魚を使ったり、肉が鶏肉だったり豚肉だったり牛肉になったりします。そのなかでも安価な鶏肉が圧倒的です。

それでも私のためにいつもフィリピン人があまり食べない生野菜や、私の嗜好にあわせた料理を出してくれました。

## ホテル

私はイロイロではホテルに泊まりませんが、南の会の友人が何人も訪ねてきてくださったお陰でホテルの価格を調査することを余儀なくされました。イロイロが観光地でないせいか超高級ホテルはありませんが、4 クラスのホテルはいくつかあります。価格は1,000ペソ(3くらいか)から2,800ペソ程度でした。なお、ホテル毎の価格に関する情報は本号「お役立ち情報シリーズ」欄でご紹介しておりますのでご

参照ください。

## 物価

平均的なところでフィリピンの物価は日本の三分の一程度でしょうか。それでも中には信じられないような安い商品(サービス)もあります。詰まるところ、現地で取れるもの(現地の手によるもの)は非常に安く、日本の十分の一くらいの物もあります。

以下、イロイロで購入した商品(サービス)の価格例を羅列して見ましょう。

< 単位 = ペソ ( 1ペソ = 約2.1円 ) >

- ・床屋：70(屋内・冷房あり)、屋外は30
- ・映画：60(封切映画・上映は日本より早い)
- ・トイレットペーパー：9(ひと巻き)
- ・ビール：18(230CC瓶、中身のみ)
- ・コーラ：23(1L瓶、同上)、9(小瓶)
- ・ミネラルウォーター：8(ペットボトル一本)
- ・タバコ：23(マルボロ20本入り一箱)
- ・使い捨てガスライター：5～35(一個)

\* 5ペソのそれは暴爆しやすく危険

- ・コーヒー：35(冷房の入った喫茶店)
- ・ジブニー(相乗りタクシー)：初乗り7
- ・タクシー：初乗り30
- ・ガソリン：45(1L)、軽油：37(同)

\* 石油はとても高く市民の生活を圧迫

- ・電池：31(単三・東芝製=Made in Japan)
- ・コピー：1.75(A4一枚)
- ・プリンター用インク：400(黒)

\* PC関係は全てとても高い

- ・マッサージ(デンマーク式)：250
- \* 1時間、全身にオイルを塗るサービス
- そのほか物価ではありませんが、人件費が極めて安く、低所得者層の日当は200～250Pです。先日、片道30キロの所にあるゴルフに行くのに車を半日ハイヤーしたところ600ペソでした。内訳は運転手代が200ペソ、ガソリン代が400ペソと言われました。

## ゴルフ

1. ゴルフコース (Iloilo Golf & Country Club)

先にもご報告したこのゴルフ場は、フィリピンで最も古いゴルフ場と言われています。来年

100周年を迎えますが、実際にはバギオCCが昨年で100周年でした。名門ゴルフコースですから少し高いかもしれませんが大変良く整備されています。<単位=ペソ>

- ・グリーンフィー(平日)：1,120
- ・ゴルフ保険：45
- ・キャディフィー：250(チップは100~)
- ・貸しクラブ：400

\* その他に車代が600ペソかかりました。



<Iloilo Golf & Country Club>

## 2. ゴルフ練習場(打ちっ放し)

住まいの近くに打ちっ放しの練習場があり、とても安く利用できました。<単位=ペソ>

- ・利用料(入場料)：無料
- ・ボール(1ダース)：45
- ・貸しクラブ(一本)：30
- ・コーラ(グラスボトル)：12

## 訪問時期

フィリピン各地からの便にもあるように、LSを目的に訪フィするのでしたら暑い(熱い)4 & 5月と、雨季(6~9月)は避けたほうがよいでしょう。特筆すべきは8月8日から13日まで暴風雨が6日連続しました。寒い日本を脱出して11月から3月頃が適当だと思います。そういった意味で、私は一番悪い時期(4~9月)にいたことになります。(苦笑い)

## シーリゾート・ボラカイ

ボラカイは世界に知れたシーリゾートで、イロイロがある同じパナイに属し、車で片道6時間ほどの北西に位置します。ダイバーである私

(昨年”PADI”資格を取得)がこのパナイ島まで来て行かない手はないと考え、予算を組んでもらいました。結果、

- ・イロイロからバス代と船賃：1,500ペソ
- ・ホテル代(2泊3日)と食費：3,000ペソ
- ・3ダイブ(全レンタル付き)：4,200ペソ

合計約9,000ペソということでしたが、持っていった小遣いも心細くなり、次回訪問時の楽しみとしました。

## 終わりに

5ヶ月に及ぶ”LOOB”での生活は何ものにも代えがたい経験でした。フィリピン人特有の人懐っこさと親切(それが並大抵でない)に囲まれ、本当に楽しい毎日でした。

フィリピンの経済的な貧しさの中での精神的な豊かさ、それにスマイル。今日の日本を振り返る良い機会を得たと強く感じました。

同じフィリピンでも他の大都市のような喧騒さのないイロイロはリタイアーにとって住みやすい所だというのが私の感想です。

今後、「南国暮しの会」が”LOOB”の友好団体となり、会員の皆様が同地を訪れ、一人でも多くの「イロイロ」ファンが生まれることが私の勝手にささやかな願いです。

“LOOB”のJohn, Yukie, Roy, Jonna, Misako それに多くのスタッフ、ボランティアの皆さん本当にありがとうございます。お世話になりました。

なお、NGO法人”LOOB”にご関心の向きは <http://www.loobinc.com>をご覧ください。

[イロイロにお越しいただいた会員の皆様とセブ支部の皆様へ]

お礼の言葉が最後になって誠に申し訳ありません。5ヶ月間のイロイロ滞在中、激励にお越しいただ大勢の会員の皆様、またイロイロへの行き帰りにセブへ立ち寄った際お世話いただいたセブ支部の皆様、この場をお借りして暑く御礼申し上げます。

# 「夢と冒険の旅」 語学留学編

関東支部 No.732 馬場 章介

## （旅の目的）

昨年（2005年）1月末に約40年間のサラリーマン生活を卒業し、同年3月より数年前から夢を見ていた約1年間の一人での海外生活体験を実現しました。

現役のころの仕事はほとんどが国内営業の仕事でしたので海外での生活は初めてでした。昔の話ですが3歳のころ会社の研修で約1ヶ月間アメリカで「ホームステイと自由旅行の旅」を経験したことがあります。その時は言葉が喋れなくても若さと好奇心でアメリカを飛び回ってきました。そして初めての海外旅行で外国での生活の楽しかったことが忘れられずに退職したら再チャレンジしようと30年間心の中に温めてきました。

今回の旅の主な目的はこれから海外生活を志す者として少しは英語を勉強しておこうと言うことと、サラリーマンの卒業旅行でした。

## （準備と留学エージェント）

留学は初めての経験なので訪問地、学校の選択は都内の語学留学斡旋業者（エージェント）を10箇所ぐらい訪問し情報収集しました。

国際文化教育センター発行の「留学ジャーナル」やアルク発行の「語学留学」などの雑誌も読み参考にしました。エージェントはどこも若いスタッフがとても親切に相談ののってくれます。都内にははすごく沢山のこの種のエージェントがあるのに驚きました。私は最終的には新宿住友ビル10階にある「アルク・グローバルパートナーズ留学サポートセンター」、TEL 03 - 5325 - 6406に学校とホームステイの手配をお願いしました。

このエージェントの良い所は親切な対応と全てに良心的で手配料金（手数料）が無料であるところです。他はほとんど5～6万円くらいの

費用がかかります。

出発の1年半前から訪問地、語学学校の選択、日程、費用、等の準備を進め1年間は国内の英会話学校「イーオン」に会社の帰りに通いました。60歳過ぎてからの英会話の手習いは成果がなかなか現れずに苦勞しましたがある時、成果を期待することを「あきらめて」学校を楽しむことに切り替えました。それはある人から「あきらめる」という言葉は「明らかに認めるという意味だよ」と教わったからです。自分の年齢と語学学習能力の乏しいことを明らかに認めてからは気分的にととても楽になり通学が楽しくなりました。

## （語学留学の成果）

海外でも同じスタンスで望みました。そのためか語学学習の成果も目指していたよりも遥かに及ばない結果でした。理由はホームステイで毎日亀のようなスローライフを楽しんだことと、学校では思っていたよりも日本人の若者の友達が多くできて日本語での会話の機会が多かったこと、そして予習復習をサボり日本から持っていた日本の小説を読んでいたことが原因だと思います。しかし学習成果以上に、先生やクラスメイトと楽しく授業できたこと、いろいろな国の沢山の若者達とコミュニケーションがとれ



学校以外でも楽しく遊んだこと、ホームステアをエンジョイできたこと、病気、怪我がなかったことに大きく満足しています。

さらに特記事項として各訪問先でのホームステア先に恵まれどの家庭でも親切で温かいホストファミリーで毎日の生活を大変エンジョイできて感謝の一言でした。話に聞くと待遇の良い家庭もあるようで、学校に申し出てステア先を変えてもらったというケースも多々あるようです。

### (訪問地と学校と通学期間と授業料)

#### 3月にカナダのバンクーバー

学校：「VEC (バンクーバー・イングリッシュ・センター)」

期間：12週間、午前と午後の授業。

授業料：12週間で約15万円とホームステア料金が同じく12週間で約16万円。

(金額は為替レートの変化や、学校の年度によって変わる可能性があります。授業の種類、時間、料金、学校の概要、ホームステア、等は全て日本国内のエージェントで相談できます。尚、一週間の授業は金曜日は半日で土、日曜日は休みで正味5日間)

### (学校の特徴と思い出)

最初に訪問地をカナダのバンクーバーのこの学校に決めた理由は、カナダは英語の発音がスタンダードでわかり易いので勉強するならカナダが良いよとイーオンのアメリカ人の先生がアドバイスしてくれたことと、バンクーバーは自然環境も気候も治安も良く住みやすいという理由です。さらに国民性も外国人に対して偏見が



なくともフレンドリーであるとエージェントからも薦められました。食事も国際都市なので日本食でも中華でも何でもあるよと言われたからです。実際にバンクーバーは全てに期待以上のところでした。ロングステアする候補地としてもお薦めの場所です。特に7, 8, 9月の夏場のシーズンは気候的に最高です。

この学校はバンクーバーでも中堅以上の規模の学校でクラスの種類も多くて、教室、食堂、売店、等の設備も清潔でクラスの種類も充実しており、学生も世界中から沢山の若者が集まっています。1クラスの生徒数は12人前後です。いつも学校の中はエキサイティングで生徒も先生も皆フレンドリーで授業内容も充実していました。語学留学は初めての経験で、入学時のクラス分けのテストで頑張っしまいチョット成績が良かったせいか、実力以上のレベルのクラスに入っしまい授業についていくのにと苦勞しました。クラスは変更できるのですが学校のシステムを十分理解していないので1ヶ月間我慢して受講しました。

学校内での会話は授業中以外でも全て「イングリッシュ・オンリー」なので最初のころは先生が何を言っているのか、今授業で何をやっているのかも理解できなくてとても緊張して授業を楽しめませんでした。そして朝9時から午後3時過ぎまでの授業は60歳過ぎたおじさんには最初のころはとても厳しく感じました。しかしクラスメートも先生もとてもフレンドリーなので言葉はわからなくても1週間ぐらいで何とかどんな授業をやっているのかは理解できるようになりました。1ヶ月も経過するころには学校や授業にかなりなれてきて、生徒の90%は20歳前後の若者達ですが年齢や出身国の差別はなく友達も沢山でき授業が楽しくなってきました。言葉は十分に理解できませんが60年間以上の人生経験が大きな武器になりました。

学校のスタッフやサービスも充実していて日本語で相談できるスタッフもいて大変助かりました。そしてバンクーバーの街全体が景色と自然環境が素晴らしく良くて通学や放課後も街の中を歩きまわったり、公園や海辺をウォーキ

ングしたりして授業のストレスを和らげてくれました。クラスでは毎月テストがあり成績と担任の先生の評価で進級できたり同じクラスに留まったりします。ここの生徒は結構まじめな若者が多く、放課後は良く遊びますが授業中は真剣です。先生も楽しい中にも厳しさもあってしっかりした授業内容でした。

毎週金曜日になると生徒同士で「週末は何をする予定」と誘い合って遊びます。そして特に月一回のテストの終了後は皆思い切って羽を伸ばして遊びます。クラスメートとテニスをしたりハイキングに行ったり小旅行をしたりパーティーしたり日本のサラリーマン生活では経験できなかったことを沢山楽しむことができました。10人ぐらいでシアトルにイチローのいるマリナーズと松井のいるヤンキースの野球の試合を観戦に行ったり、3泊4日でロッキー山脈のツアーに行ったり、忘れられない思い出が沢山できました。



クラスによっては一ヶ月の間に一度皆の前で自分で選択したあるテーマについて5分間の英語でのスピーチをしなくてはなりませんでしたが、それも事前準備が大変でとてもプレッシャーがかかる授業でしたが今思うとても楽しい経験でした。私は「日本酒」と言うテーマでスピーチをしました。街から日本酒を買ってきて皆でテイastingをしました。授業中なのに女性の先生も「これは美味しい」と喜んで飲んでいました。語学力はクラスで最低でしたが人生経験に自信を持ってパフォーマンスで何とか切り抜けました。英語力によっていろいろなクラスが

ありますから興味のある方、若者と遊びたい方は是非留学の経験をお勧めします。

**6月にモントリオールに移動し、その学校「ILSC（インタナショナル・ラングエッジ・スクール オブ カナダ）」**

期間・4週間、午前だけの授業。

**8月に再びバンクーバーに戻り学校「VEC」に戻る**

期間・4週間、午前中だけの授業。

9月中旬にビザの関係で帰国、11月にオーストラリアに出発。

**11月にシドニーの学校・「エージ・メート・アカデミー」**

期間・4週間、午前中だけの授業。

**12月にニュージーランドのクライストチャーチに移動。**

学校・「ガーデンシティー・イングリッシュ・スクール」

期間・4週間、午前中だけの授業。

### （学校のシステムと授業内容）

この1年間で4箇所の学校に通学しましたが、ほぼこの語学学校でもシステムは同様です。週単位で入学でき終了できます。初めにクラス決定のためのテストがありクラスが決められます。週あるいは月単位でテストがあり成績評価されそれによってクラスが変わります。

授業内容は主には会話と文法に分かれていますが、その他発音とか作文とか資格を取得するためのクラスとかいろいろ選択できます。基本的には教科書を中心に授業を進めますが宿題も出ます。老眼のおじさんにとっては教科書の文字が小さいのには苦労しました。

初級のクラスでは日常の出来事、身近な話題が授業内容の中心になります。授業は90分間で1回の休憩を取りますが先生と生徒達との双方向の会話で進められ、ゲームも多く取り入れ、飽きたり居眠りする暇はなく楽しみながら勉強をするように工夫を凝らしています。どの学校でも契約の期間を終了すると修了証書が渡されます。先生とクラスメートに祝福されてほとんどの生徒は感激の一瞬です。

## (最後に)

学校だけを取り上げるとクライストチャーチの「ガーデンシティ・イングリッシュ・スクール」が規模は小さめだけど学校の運営、スタッフ、先生が非常に温かみがあり落ち着いて勉強できる学校で、街も田舎町でのんびりできて初級クラスの自分にはベストに感じました。

この学校では毎週金曜日に修了式を全校生徒(約100人ぐらい)が集まってパーティー形式で行われ、皆の前で担任の先生が今週修了する全員の生徒を授業を通じて知ったその生徒の感想と紹介をして、生徒は一言お礼のスピーチをして皆に修了を祝福される行事が印象的でし

た。テスト後の先生の成績評価も文章で渡されキメの細かいフォローをしてくれました。

クリスマスの時も全員でとても楽しいパーティーを開いてくれました。そして私にとっては1日コースの授業より半日のコース(パートタイム)のほうが生活にゆとりができてロングステアを楽しむことができました。しかし、ここでは4週間の短期間でしたので12週間ぐらいじっくりまじめに勉強したらもう少し成果も期待できたのではないかと反省もありました。

以上、沢山のプレッシャーはありましたがそれ以上に人との出逢いもたくさん有りとても楽しい語学留学生生活を体験できました。

# チェンマイ滞在記 および ロング・ステイ考

関東支部 No.1081 川本 雄二

私は昨年、55歳で早期退職した自由人です。将来は海外でロング・ステイしたいとの思いから、十数年前から家内と年に2-3回のペースで観光しながら世界各地を見て回りました。そして、その夢が実現可能となった今年、まずは2月から4月の3ヶ月をマレーシアのキャメロン・ハイランドで過ごし、今回は6/26から9/21までの88日間をチェンマイで過ごしました。

## 1. チェンマイ滞在記

帰国予定前日の早朝、NHKの朝の連ドラを見るため、CATVのスイッチを入れた所、映りません。今度は地元のTVチャンネルに変えたところ、



どのチャンネルも国王礼賛の定番ビデオを流しています。何かあったな、と思い、インターネットを開き、メール・ボックスを覗くと、日本の友人からのメールで『タイでクーデター発生』と言っているではありませんか。一瞬、頭の中が真っ白になりました。クーデター発生となれば、まず明日の帰国は不可能だと直感したためです(滞在許可は明日まで)。ところが、朝日.comなどのHPで情報収集し、同じマンションのアメリカ人やタイ人スタッフ達の話聞いていくと、ようやく今回の事態の背景や今後の混乱リスクのレベルが見えてきて、これなら大丈夫そうだと思い、じたばたしても始まらない、と言うことで、家内とゴルフ場へ向かい、チェンマイ最後のゴルフを楽しみました。そして、日本に予定どおり帰国することができました。世の中、何が起こるか判らないと言う事を改めて認識しました。さて、ここに、3ヶ月間のステイをまとめてみました。

### 1-1. 日本人とのおつきあい

一番欲しかった日本人はテニスの仲間でした。しかし、これがなかなか見つからず、当初、家内とふたりだけでプレーし、隣のコートでやっ

ている地元の方を捕まえて、ミックス・ダブルスをやったりしていましたが、その内にテニス・グループの存在を知り、その仲間に入れてもらうことができました。

皆さん非常にコンフォタブルな方ばかりで、滞在中は週に3回もテニスを楽しめました。テニスが好きな者同士の集まりで、仲間意識を自然に持てたかと思えます。皆さんに感謝しています。

### 1-2 . 地元の皆さんや欧米人とのおつきあい

英語が思いのほか通じたことはラッキーでした。チェンマイのタイ人は幼稚園や小学校から英語を学んでいます。また、歴史的に欧米人の避寒地であり、彼らが落とす外貨を経済の柱にしているだけに、多くの方が英語をしゃべれます。そのため、日常生活の中で言葉で困った場面はあまりなく、日ごろ顔をあわせている人たちとも十分コミュニケーションがとれ、快適なおつきあいができました。

もうひとつ大きかったのは、多くの欧米人とフランクに会話して、彼らは何故、チェンマイに来て、どのように暮らしているのかとか、世界の今の生の経済情勢にまで情報交換できたり、親しくなった人とは身の上話まで突っ込んで聞いたり、と大変楽しいお付き合いができた事です。お互いにある意味、旅行者という気楽な者同士であり、何故かチェンマイに来たという共通項があるためか、結構、本音の会話ができるのが楽しかったと思えます。

### 1-3 . レストラン、食事

レストランは多彩でおいしくて安いです。タイ料理、中華、ベトナム料理、イタリア料理、フランス料理、日本料理など世界中の料理を楽しめます。日本料理屋は50店以上あり、競争が激しく、我々ユーザーは比較的リーズナブルな値段で本格的な和食が食べられます。

食材も豊富で、安くておいしいです。野菜やくだものは多彩です。キュウリ、ホウレン草などタイ産の日本の野菜も売っています。米もタイ産の日本米がとってもおいしいです。

生魚は近郊で養殖されている淡水魚の中に鯛に似た魚があり、口にありました。カニは、大変おいしいです。エビもまずまずです。冷凍魚はサーモンやウナギがおいしいです。マグロ、サーモンなどの冷凍ものを解凍すれば、サシミもいけますが、日本の多様な生のサシミには勝てません。鳥、牛、豚などの食肉は大変安いですが、魚は比較的高いです。

日本食材は大変豊富で何でも揃いますが、輸入品は高く、タイ産の日本食材は安いです。

レストランが安いので、輸入食材を使って自炊する方がかえって高くつくかもしれません。食事にあまりこだわらなければ、大変安く済ますこともできます。例えば、1人で月に15,000円で食費をまかなっている方もいます。

でも我々は、それなりの贅沢をしたため随分食事にお金を使いました。

### 1-4 . 住居

チェンマイの最大の弱点は住宅事情かも知れません。今後、夫婦でのロング・ステイヤーが増えていくとすれば、その受け皿がネックとなる事が懸念されます。

当地のコンドミニアムの大半はスタジオ・タイプと言うワンルーム・マンションです。これでいいのであれば、いくらでもあるため、住みかの確保は簡単です。しかし、1LKや2LKになると途端に品薄となります(ダイニング・キッチン(DK)は有りません)。さらに私のように、バス・タブ付き、きちっとした台所が付いている、家具付き、電化製品付き、調理器具や食器付きなどと言い出すと、またさらに品薄となります。

このような状況の中、1LKタイプのコンドが現在、かなり新築されていますが、バス・タブが無かったり、台所が無かったりします。しかも大変困ったことに、新築コンドの価格が急上昇しています。今までの相場は立派な2LKで月45,000円位からですが、新築の1LKタイプが、それ位の価格になってきました。これは今までの相場の約2倍です。

チェンマイも11月から始まる国際花博覧会に向けてバブル気味です。スタジオ・タイプで良いと割り切って住んでらっしゃるご夫婦もいます。でも、それはチョットと思われる場合はそれなりの覚悟が必要かも知れません。2 - 3ヶ月の短期契約は結構難しいとっておいて丁度良い位です。

### 1-5 . 安全

安全な地だと思っていました。でも、クーデターですからね。もしも、無血のまま終息して民主政権へすんなり政権委譲できたら、拍手喝采ですが、静かに見守る他ありません。

ただ、この3ヶ月間、安全のために常識の範囲を超えた特別な配慮をしたことはありません。

ガードマンも武装していません。安心して暮らすことができました。

### 1-6 . 気候

暑いことは暑いです。滞在中は、ずっとTシャツと半ズボンで暮らしました。我々は雨季と言われる季節に滞在した事になります。この時期はオフ・シーズンですが、実際に住んでみると意外に過ごしやすいものでした。

雨は降りますが夜を中心に降り、昼間は曇天が続くというパターンが多く、滞在中、毎週3回のテニスが一度も雨で流れなかった事が不思議なくらいです。晴れると、さすがに暑いのですが、曇っていると過ごしやすく、夜や明け方は大変涼しくなります。滞在中、クーラーはほとんど使いませんでした。

今年の日本の夏は猛暑と報道されていましたが、こちらの方がはるかに過ごしやすかったと思います。ベスト・シーズンと言われる時期は11月~2月で、この時期は気温も下がり、最も過ごしやすいと言われているため、11月~12月にはまたチェンマイで暮らしてみます。

### 1-7 . ゴルフ、テニス、水泳

今回の88日間のチェンマイ・ステイでの主要アクティビティーはゴルフとテニスと水泳でした。

【 ゴルフ 】 キャメロン・ハイランドに比べるとビジターやゲストの料金は決して安くはないと思います。でも、立派なコースであり、日本に比べれば安いといえます。会員券を買うのが一つの方法でしょう。我々の場合は、家内がビギナーで、私は15年ぶりの出戻りのため、滞在後半は低価格のショート・コース(パー29、グリーン・フィー:500円)を中心にプレーしながら練習に励みました。滞在中、コースに出たのは20回、練習場が35回でした。



【 テニス 】 毎週3回のペースで、10人近いグループと朝の9時から11時までみっちりプレーし、大汗をかいた後、冷たいビールで喉を潤しながら昼食をとるというパターンでした。スポーツの後のビールの旨いこと。昼も夜もビール。ピア・シンが旨い。滞在中のテニス・プレーは32回でした。

【 水泳 】 本来、海派の私が何故か陸の盆地に位置するチェンマイに来ています。海は無いですが、プールはあちこちにあって、快適な環境で水泳ができます。陸上スポーツとは違った筋肉を使い、快適な水温で1kmほど泳ぐと、爽やかな気分になれます。ここチェンマイではテニス、ゴルフに加えて水泳と、私にとってのスポーツ3本柱ができる環境が整っていました。滞在中の水泳は28回でした。

と云うことで、思いっきり、アウト・ドア・スポーツを楽しんだため、真っ黒です。

### 1-8 . 健康

寒いよりも暑いほうが好きな方にとっては好

条件でしょう。11月～2月までのベスト・シーズンは滞在経験がありませんが、今回滞在した期間よりも涼しくなることは間違いありません。寒さが無いということは、足腰に持病がある方や高血圧の方にとっては良い環境でしょう。ひとつ問題があるのはダウンタウンの空気の汚染です。我々が最初に当地を訪れた4年前に比べると車の量が飛躍的に増えており、排ガスによる空気の汚染が悪化しています。でも、一步、ダウンタウンから離れると、緑豊かな綺麗な環境にはなります。

### 1-9 . 特記事項

単身でチェンマイに来る予定の男性諸氏にお伝えしておきます。チェンマイの若き美しい女性にはご注意あれ。彼女達はしたたかで逞しい。

みんな、金持ちの日本人男性を待ち構えています。月20万円の年金をもらっている日本人は彼女達から見て、大変な金持ちです。黙っていても、向こうからアプローチがあります。大変もてます。彼女らの要求はエスカレートします。彼女らは親や親戚まで巻き込んで、たかってくる。そういうことを親や親戚にやってやれることが彼女達には誇りだそうです。

スーパーの買い物やレストランでの食事にも親戚一同が同行して全部支払わされます。携帯電話、車、そして住宅まで買わされます。

次に、生活安定のためにアパートを買ってほしいときます。自分達は真剣に愛し合っていると錯覚している間に、結局、1000万円以上を費やしたという事例はゴマンとあります。

これに似たやり方で、日本人が日本人をだますケースも珍しくありません。危ない日本人の事例はたくさん聞きました。もう一つ、ご夫婦でのステイヤーにも一言。せっかく、夫婦で、あこがれの海外ロング・ステイをとチェンマイに来たにもかかわらず、亭主がタイ女性に浮気ならぬ、本気になってしまったがために、あこがれの海外で何と離婚してしまったと言うような事例もあります。ご参考まで。

## 2 . ロング・ステイの適地はどこか

日本人のあこがれの地はハワイ、オーストラリア、カナダあたりでしょうか。東南アジアがきれいな奥様方はたくさんいます。トイレのきたなさだけで、2度と行きたくないという話しもめずらしくはありません。確かに、ハワイ、オーストラリア、カナダ、、、いいですね。

でも現実には一部の本当のお金持ち以外は難しいと、私は思っています。少なくとも、普通(名の有る企業の重役だった人以外?)のサラリーマンには無理だと思っています。日本は長らくデフレが続きましたが、USA, ヨーロッパ、カナダ、オーストラリアはバブルぎみで、実際に行ってみると、その物価の高さに驚いてしまいますよね。

しかも、食事情にも限界を感じます。日本より物価が高い、または同等であれば、日本に住んだ方が良いと私は思っています。もちろん、旅行は別ですが。物価が安いからこそ、日本ではできないような、ある種の贅沢な暮らしができる醍醐味があるのであって、それが無いのなら、日本に居たくない余程の事情が無い限りは、日本の方が良いと思います。日本よりもすばらしい理想の楽園なんてそんなには無いと言ったら言い過ぎでしょうか。

ここチェンマイには欧米人が多く、かなりのファラン(白人)と四方山話をしましたが、日本人憧れの地から来ているロング・ステイヤーに随分会えました。例えば、ハワイ、フロリダ、スイス、ニュージーランド、ゴールド・コーストなどです。ゴルフ場のレストランで横にいたオーストラリア人と話し始めたら、彼らはゴールド・コーストから来てロング・ステイしていると言います。『え? ゴールド・コーストが自宅?』『チェンマイよりもゴールド・コーストの方がはるかにいいでしょう?』『日本人あこがれのロング・ステイ地に住んでいる人が、何故チェンマイに?』答えはクリアでした。『ゴールド・コーストより、チェンマイの方が安いよ』『だって、日本人だって同じだろ?』彼らが言うことは単刀直入です。

もともと、私も誰が何を言おうと我関せずのタイプで、本音で生きる事こそが第2の人生の価値観位に思っています。でも、かみさんには見栄を張りたい気がチョットある。今後、団塊の世代もロング・ステイヤーの仲間入りをしてきますが、人気と言うか、むしろ実績レベルではタイ、マレーシアが上位を占め続けるだろうと、ほぼ確信しています。つまり、アンケートか何かで、どこの国にロング・ステイしたいですか？と聞けば、ハワイ、カナダ、オーストラリアは上位を占めるはずですが、実際に実績ベースで統計をとればタイ、マレーシアが上位になると思います。

### 3．ロング・ステイのパターン考

いままでにお会いした日本人の海外ステイヤーとお話してみた内容を踏まえて、ロング・ステイのパターンについて考えてみました。

#### 3-1．夫のニーズと妻のニーズ

夫は一般的には長らく仕事一筋であったがために、リアタイアした後、引き続き仕事関係の人脈に頼らないのであれば、それ以外の仲間をたくさん持っているケースは少ないのではないのでしょうか。従って、何らかの理由で海外を指向する夫は日本に対して未練は持っていないでしょう。つまり、素直に海外でロング・ステイをしたいとおっしゃる。

一方、妻のニーズは複雑かも。夫がリタイヤする頃と言えば、妻の方は子供から手が離れて久しく、いろんな趣味やサークルなどを通じて、それはそれは広い人的ネットワークを作り上げており、遊び方を熟知し、人生を我が世の春とばかりに謳歌されているケースを多く見かけます。妻のニーズから、いくつかのパターンを考えてみました。

私は海外なんて興味はありません。日本が絶対がいいんです。あなた！そんなに海外がいいのなら一人で行ってらっしゃいよ！

> 単身赴任型

海外旅行は大好き。でも日本を捨てる気には

はなれないわ。いままでよりも長めの海外旅行なら行きたいわ。

> シーズン・ステイ型

夫が現役時代に海外赴任経験が多く長かったため、海外で暮らすことに抵抗はないわ。海外生活の楽しさを思い出すわね。

> ロング・ステイ型（前向き型）

色んなことがあったわよね。これ以上、日本になんかに住んでいたくないわよ。日本にこれ以上、未練などありゃしないわよ。

> ロング・ステイ型（逃避型）

#### 3-2．英語（外国語）が話せるか

これによって、ステイ先での生活パターンが変わってきますね。

話せる人。地元の方、欧米人、日本人を問わずアプローチしていく。

> 地元密着型

話せないため、やむなく日本人とだけ付き合う、そして頼る。このケースの場合は海外に来てまで、日本に住んでいた時と同じように人間関係に悩んで、結局、夢破れて帰国というケースも多々。

> 『日本人会』型

話せないけど海外に来てまで日本人とは付き合いたくない。

> 夫婦で引きこもり型

以上は、厳密に分類した訳ではありません。ある種、ジョークです。もっと、いろんなパターンもあると思います。ただし、これはノン・フィクション・レポートです。

さて、今回も楽しい旅でした。お世話になった皆様、ありがとうございました。また、10月末から、2ヶ月間の予定でチェンマイに舞い戻る予定です。また、よろしく願いいたします。

以上、若輩者の言いたい放題におつきあいいただきまして、ありがとうございました。

ご質問等ありましたら、次のメール・アドレスまでご連絡ください。

ykawamo2001@yahoo.co.jp

# 中国人と日本人はどう違うの？

中国、天津での駐在で思うこと

関東支部 No.363 赤嶺 良彦

日本と中国は、距離も近く交流の歴史も長く、漢字を使い、容姿も似ているので、日本人は、中国人をよく理解していると誤解しがちです。

私も北京と上海を短期旅行した経験から日本人と中国人は考え方とやり方は、同じであると錯覚していましたが、かなり違うということを今回の滞在で感じました。

今回、日本の会社で働く予定の研修生(若い農民)に日本語などを指導するため約三ヶ月間滞在した天津での体験を通じ、日本人と中国人の考え方とやり方がかなり違う例を紹介します。



## 1) 太極拳の練習

毎朝6時15分から約1時間、20人ばかりの高齢者がテープレコーダに録音された音楽に合わせて一応練習することになっています。実際は、各自の都合に合わせて練習時間も変わり、欠席するのも自由であり、テープレコーダの持ち主も勝手に休むこともあり、他の高齢者は文句も言はず音楽なしに練習します。日本のように、事前に連絡したり、言い訳を言ったりはしません。

## 2) 道に迷った人の補導

天津に滞在して三日目の朝、近所を散歩した時に道に迷いパニック状態に陥り、しかたなく交通整理中の警官に助けを求めました。その警

官は親切にも交通整理を中断し、私を勤務先の学校まで連れていってくれました。その親切さに“一時的に”感激しました。後で分かったことですが、私の受け入れ先は、その親切さにそれ相当のお金を払わされ、警察署はその警官を昇進させたとのこと。日本でこういうことが起こりうるでしょうか。

## 3) 学校食堂での出来事

学校の食堂で夕食を食べている時、天井の壁が突然落ちてきましたが、食事をしている生徒たちは誰もびっくりした様子を見せません。さらに生徒が注文した料理に針金が入っているのを見つけても当たり前だとの様子でした。これらの出来事は、日常茶飯事のことなので、驚くに値しないことかもしれません。日本では、この学校の食堂は生徒たちや学校当局から非難されると思います。



## 4) 徹底した能力主義

受け入れ先の責任者は、3つの会社を経営する女性経営者であり、広々とした社長室で”ワンウーマン“ぶりを発揮しています。一方女性社長の旦那は、同じ会社の社員として他の社員と机を並べ、女性社長の指示に従い仕事をしています。日本の旦那は、このような立場に耐えられるでしょうか。少なくとも私は耐えられません。

## 5) 健康診断

健康診断を受けるには、警官の面接を受け、警察の紹介状を入手することが必要です。胸部写真は服を着たまま行なわれます。日本のやり方と違うので戸惑いました。色盲の検査では、かなり小さい字と多くの色が使われているので識別するのが難しいです。

## 6) 郵便局員の勤務態度

天津郵便局で切手を買おうと申し込んだ時、窓口にいる郵便局員から、封筒に書いてある受取人の掲載場所を書き直せと命令されました。国際通信の様式に従っているかどうか、別の郵便局員に確認すると、書き直す必要はないと言われました。一部の郵便局員は自分勝手に思いつきだけの発言をしており、外国人は戸惑うばかりです。

## 7) 水道代集金人

夕方5時ごろ、突然ドアを激しく打つ音がしたので、やむなくドアを開けました。中年の女の人が室内にいきなり入ってきて、水道のメーターを見て手の甲に書いた数字を集計し、集計分の水道代を今すぐ払えとえらい剣幕で言いました。受け入れ先が払うことになっているといっても、なかなか聞いてもらえず、明日の11時半までに払わなければ水道を止めると脅かされました。日本の水道代集金人はこのような高圧的なことをやるのでしょうか。

## 8) 陳列された商品の私用

販売するために陳列された商品、たとえば爪切りで自分の爪をきったり、遊戯用品を使って遊んだりします。私が買ったねぎを店員がバットのようにもてあそんでいるのを見て腹が立ったことがあります。陳列された缶詰商品はほとんど全部でこぼこになっていて、味もまずいです。

## 9) 中国の運転手

中国では運転手を尊敬し大事にしています。飛行場から私を歓迎会会場まで乗せた運転手は、歓迎会に同席しご馳走を楽しく賞味していました。日本では運転手は歓迎会に同席しないのが普通であります。中国人は、非常に話をするのが好きで、誰とでも話をするのが当然と考えて

います。タクシーの助手席に乗り、運転手と話に夢中になっているのを数多く目撃しました。日本では、運転手と客が並んで座っておしゃべりするのはいらないと思います。



以上、日本人と中国人の考え方とやり方の違いについて指摘しましたが、因習にとらわれた狭い世間の中で暮らしている日本人と違って、中国人は、公序良俗に反しないかぎりどんなことでもゆるされる、言い換えれば、何事に対しても許容度が高いということです。このことは、精神的な余裕をもたらし、のびのびとした生活を楽しむことが出来ます。心が開放され、晴れ晴れとした気持にもなれます。因習とか世間にこだわるには人生は短すぎ、ゆっくりとそして安定した暮らしがあれば十分だと考えているようです。

最後に忘れてならないことは、中国は2010年までに国際的な行事（2008年の北京オリンピック、2010年の上海国際博覧会と広州アジア競技大会）が開催される予定があり非常に注目されていることです。私が滞在していた天津でもオリンピック競技の一部が行われます。天津は北京に近く、ヨーロッパの旧租界地など多くの名所旧跡や観光地があります。オリンピック競技の見学を兼ねて、天津を訪問されたいかがでしょうか。これらの国際的な行事が終わる2011年以降、大きな社会変動が起きると予想されており、中国での滞在や観光が影響をうけるかもしれません。

# バギオ滞在記

関東支部 No.77 橋本 郁夫

2005年9月より2006年5月まで、バギオに滞在した。その間、英会話学習と時々ゴルフやテニスをした。大東亜戦争において北部ルソンにて戦死した英霊の慰霊祭に参加。バギオフラワーフェスティバルのパレードの見物やジャパンフェスティバルの見学など祭りを見る機会があった。冬季には、風邪や神経痛等に悩まされながら、それでも楽しいロングステイを体験した。思いつくままに書いてみた。

## 1. 日本軍将兵の英霊の慰霊祭

バギオから約2時間の場所にあるリングエン湾にマッカーサー率いる米軍が上陸した。昭和20年1月9日であった。やがて米軍と日本軍の間で戦闘が開始される。バンガシナン州やラウニオン州の北部ルソン平原から始まった戦いは、日本軍の敗北、退却により、バギオから北部ルソン山岳地帯に移っていった。この平原と山岳戦で戦死した日本軍将兵の慰霊のために、齋木バギオ支部長が、数年前から慰霊祭を実施されていた。今年もバンガシナン州のサンファビアンやカバルアンとベンゲット州のバギオ市内、キャンプ・スリー（K3）地点、山下道の21.4km地点を計画されていたのである。

実は、私は定年退職してから浄土真宗本願寺派で得度をして僧侶資格を授与されていた。そういうわけで、慰霊祭での読経を齋木支部長から依頼され、修業不足の凡夫とは知りながらお役に立てるならと引き受けた次第であった。2月10日に、サンファビアンで初めての慰霊祭が行われた。日本人会副会長で南の会会友でもある山田ご夫妻や日本人会の方々、地元の議長、議員の各位、小学校の先生と生徒の皆さん方が参列し盛大に挙行された。

この慰霊碑は、齋木さんの尽力により海岸の新しい場所に移された。前日の夜、齋木さんと

会員の加藤利左工門さんと私の3人で見た、リングエン湾の夕日は大きく美しかった。英霊の皆様も喜んでおられることであろう。



慰霊祭 参列者の皆様

3月26日に齋木さんと二人で山下道（山下将軍が作った道路）の拠点である21.4km地点の慰霊碑を訪れた。この日は曇り空で日章旗が何度も倒れて、不思議な感じがした。翌日に、バギオ市内の追悼碑を訪れ、次にベンゲット道のK3地点に向かった。午後に齋木さんの住むウルダネータ市の近くのカバルアン丘を訪れた。この小高い丘の森の中に慰霊碑はある。この地で900余人が戦死している。そのほとんどの遺骨は、まだこの地中深くに眠っているのである。夕方、慰霊碑の前で読経していたら、背中にぞくぞくと何か感じた。言葉では言い表せない初めての感覚だった。私の後ろに大勢の英霊が日本に連れ帰ってくれと集まって来たように思う。正に不思議な体験であった。日系人の寺岡さんや東地さんは、サンファビアンで沢山の霊を見たと話していた。北部ルソンに草むす屍となった将兵の英霊の鎮魂の為に自分が可能な限り慰霊の読経を続けようと思ったのである。4月22日にK3地点で慰霊祭を行った。この日は、晴天で100余名の参列者で盛大に挙行された。



カバルアン丘 慰霊の読経

## 2. フェスティバル

2月25日と26日に、バギオ、フラワーフェスティバルのパレードが行われた。私はセッション通りで見物した。小学生、高校生、大学生と市民が大勢参加しパレードした。カラフルな衣装、造花や小道具など目を見張る美しさである。多くの行列が楽隊を揃え所々でダンスを披露した。さすが天性のエンターテイナーの国である。行列は延々と半日も続き大勢の観衆が道路に沿って鈴なりに見物していた。

ジャパンフェスティバルが日本大使館主催で3月6日から1週間開催された。日本文化、料理や踊りの紹介がなされた。会場内には、日本料理の模擬店がたくさん出店された。日本語を学ぶ学生や日本に関心のある人々が来場していた。



フラワーフェスティバル

## 3. 英語学校

私が通った英語学校は、韓国人が経営する学校で先生はフィリピン人である。授業料は1日4時間、週5日で、月額200ドルである。私は会話2時間とリスニング2時間を受講した。先生達は皆、親切で時々私の生活上で困っている

問題を相談し、何でも話すことができた。毎日、復習したり、買い物などで実践的に会話をしたりして、かなり会話力はついたように思った。

## 4. ゴルフとテニス

バギオのゴルフ場は2ヶ所でキャンプ・ジョン・ヘイとカントリークラブである。両方共、18Hである。ジョン・ヘイの料金は、平日同伴でプレイ費が1,650ペソでキャデイ費300ペソである。カントリークラブはプレイ費1,000ペソでキャデイ費が300ペソである。(1ペソ=約2.3円) 私は主にジョン・ヘイでプレイした。山の上のゴルフ場で登り下りが多いけれど、比較的グリーンが広く美しい。雨季は、午後に雨となる日が多く、長時間降り続くので中止したり出来なかつたりする日が多い。会友の山田さんご夫妻とよく一緒にプレイさせてもらった。韓国人の会員が多いので食堂は韓国料理が多い。



キャンプ・ジョン・ヘイ ゴルフクラブ  
(会友 山田さんと私)

テニスコートはバーンハム公園にある。年会費は、約2,000ペソ。会員になるとコート使用料は免除され、ボールボーイ費が1時間60ペソである。トレーナーを相手に練習するとき、1時間100ペソである。専用食堂があり安い。コートはクレートコートで4面ある。

高原は空気圧が低いのでテニスボールが良く弾む。低地より息づかいが激しくなるから良い運動になる。運動不足になりがちだったのでテニスは健康維持にとっても良かった。ラケットやボールは、SMのスポーツ店で安く買うことができる。トレーナーのジョニイは、親切でフレ

ンドリーである。コートに通っている内に顔が売れて、ダブルスゲームに誘ってもらえるようになる。コート主催のトーナメント大会が時々、開催されるので参加すると良い。ジョニイに勧められてダブルスの男子がシニア限定で女子は制限なしの部にエントリーした。そしたら2回勝って、決勝戦となったが、相棒の女子が病気で棄権したので準優勝となった。名前と大会名を刻んだ立派なトロフィーを頂戴することができた。日本人は、私1人だけで他の外国人は、韓国人と米国人であった。フィリピン人は親切に接してくれて嬉しかった。ゴルフ場は、韓国人が多いが、彼等はフレンドリーでないので一緒にラウンドする気がしない。彼等は、キャディからも敬遠されているようである。

## 5. 北部ルソン島の西海岸

北部ルソンの西海岸は、陽光が降り注ぎ美しい港町が多い。サンファビアンの慰霊祭が終わった後、斎木さん、加藤利左エ門さんと私の3人は、アゴー、パウアンやサンフェルナンドを回ってみた。アゴーは外人が多く、オーストラリアから来るサーフィン客が多い。サンフェルナンドは、美しい港町である。元日本人会の永峰さんが住んでおられるアパートを訪問した。1BRであるが家具完備でエアコン付きで月額6,500ペソで安い。海岸近くの美しい建物で潮騒が聞こえる。雨季は過ごしやすいのではないかと思った。9Hのゴルフ場があり、永峰さんは、毎日通っているそうだ。西海岸には、その他、ピガンやラオグなどの町がある。ピガンはスペイン情緒あふれる町である。ラオグは、マニラから航空便があり、大きな美しいゴルフ場もある。今度バギオに行ったら、これらの西海岸の町を探訪してみたい。西海岸は、バスが沢山走っているが、車でドライブしたら快適だろうと思う。

## 6. アパートとマーケット

バギオは、ホテルが多いがコンドミニウムが少ない。そのためアパートを探すのに苦労する。欧米人が少なく国内の旅行客が多いので外国人



サンフェルナンド 長峰さんのアパートの前で  
長峰さん、加藤さんと私

向けのアパートが少ないと思う。大きさは2BRから4BRが多い、温水シャワー付きが少ない。寒季に冷水では、風邪をひいてしまう。容器の水をヒーターで温水にして浴びる方法をとっている所もある。家具、冷蔵庫、台所付きのアパートが意外に少ないのである。山地のバギオでは、土地が狭く小規模なアパートが多い。郊外に行くと安くなるので車を持っている人は探しやすい。探す場合は、日曜日の新聞広告に貸しアパートが載っているのでそれを参照する。又、町を歩いて張り紙を見て探す。私が探したアパートは、月額13,000ペソで電気、水道、プロパンガス代が含まれる。2BRで台所、冷蔵庫、TV、家具、トイレ、温水シャワー付きだった。

その温水シャワーは、水圧が低いとヒーターの高温部が点灯しなかった。アパートに設置された給水タンクの水量が少なくなると水圧が低くなる。このアパートでは、毎日のように給水車を呼び、タンクに給水していた。それだけ使用量が多いのだろう。給水車を毎日、呼ぶので金がかかる。そこでオーナーは、井戸を掘った。



私が住んだアパート

1ヶ月位かかって完成した井戸だが水が出なくなった。山の上で井戸を掘っても難しいと思う。バギオでは、水道がないので水に苦労する。買い物はSM、市営マーケットや商店街などで比べて買った。食料品は、マーケットが安いのでよく利用した。米、野菜、果物、肉、魚など安く新鮮で豊富である。店が多いので比べて安い店で買うことができる。果物はマンゴー、バナナ、パイナップル、オレンジ、りんごなどをよく買った。マンゴー1kgが約2個で40ペソ位、バナナ1本が1.5ペソから2ペソ、パイナップル1個が30ペソでりんご1個が10ペソであった。米が1kg、20ペソから売っている。卵が1ダース40ペソからある。日本に帰ってきてスーパーに行ってみて改めてびっくりした。給料が高くて、物価が高く生活費が高くては、安心感がなく豊かさが実感

できない。バギオでの生活は、物価が何でも安いので安心感があった。フィリピンでは給料が少なく日本より貧しいけれど、家族が助け合って暮らしており心の豊かさが感じられるのである。そして、国民の多くがキリスト教徒であるため精神的に幸福な生活を送っているように思うのである。



市営マーケット

## 雑感 中国

関西支部 No.591 神原 克收

4月27日から5月11日まで15日間中国に行った。今回行ったのは北京の西の山西省、南の河北省が中心で一部河南省にも足を伸ばした。メンバーは平均年齢70.3歳の元気老人10名(男8・女2)である。以下はその旅行の雑感である。

中国では日本と比べてマイナス点が目立ち、どうしても辛口のコメントになる。せめて最初だけでもすばらしいところから始めたい。

### 1. 道路は素晴らしい

中国の市街地の幹線道路はどこへ行っても広々している。片側3車線+自転車用道路(2車線分くらい)+歩道(これも2車線分くらい)。車道と自転車用道路は並木で区切られている。並木の美しさは日本以上のところが多い。市街地を外れると自転車用と歩行者用の道路がなくなり車道のみとなるが、こちらも片側3車線が一般的。ここでも並木の緑が素晴らしい。

高速道路の整備も2年後に迫ったオリンピックを目指して急ピッチで進んでいる。こちら片道3車線が一般的。高速道路ではまだ車の量も少なく、まことに走りやすい。

道路は立派なのだがメンテは十分とは言えないようだ。新設の道路はともかく古いところでは路面の損傷が目立ち、補修の遅れが目につく。日本では補修のための工事が至る所で行われ渋



立派な幹線道路

滞の原因になるが、中国では新設工事は目につくものの補修工事はあまり見掛けなかった。

幹線道路は立派だが、それ以外の道路はひどいところが多い。未舗装のところが多く、メンテもされていないのでガタガタ道でマイクロバスの最後尾の座席ではバウンドした拍子に体が完全に宙に浮くくらい跳ね上がる。油断していると怪我でもし兼ねない。

## 2. とにかく騒々しい

中国を旅行された方はよく分かると思うが、中国人はとにかく騒々しい。

人と人が通常に話している場合でも、日本人には喧嘩をしているのかと思われるほど大きな声で話しをする。1対1の場合でもそうなのだから、複数の人たちの会話はまさに騒音の坩堝と化す。ケータイ電話でもとこころ構わず大声で話をする。

食堂に入っても従業員の大声に圧倒され、とても落ち着いて食事を楽しめない。人だけではない。車も必要もないのにむやみやたらとクラクションを鳴らす。北京では相当減ったように思うが、地方へ行けば依然として警笛の嵐だ。

極め付けの事例をご紹介します。大同の郊外に中国で一番古い1000年前の木製の塔があり、多くの観光客が押しかける。駐車場と塔の間に土産物店が軒を連ねているのはどこも同じ光景だ。その店が夫々にスピーカーを道路側に出し、大音量で客引きのテープを流している。これでは何を言っているのかさっぱり解らない。その店のスピーカーの真ん前に行かないと言っていることが解らない。これでは広告効果はゼロで、ただ騒々しいだけである。私の説明だけではあの騒々しさはとても再現出来ないのが残念だ。

中国の人の声が大きいのは事実だが、建物の内装も騒音に拍車をかけている。レストランやホテルのロビーでも床はタイル、壁と天井は漆喰というのが一般的で吸音する材料は何もなく、騒音を増幅するだけである。

## 3. 埃っばい

今回訪れた山西省は北西部でモンゴルと接していて、周辺にはいくつかの砂漠が点在している。これらの砂漠は日本へやってくる黄砂の発生源でもある。山西省自体もセミ砂漠で乾燥しており、緑があるのは一部地域に限られている。おまけにこの地域は風が強く、いつでも砂が舞っている状態である。州政府挙げて植林運動を展開しているようだが、広大な面積を抱え、目覚ましい成果を挙げているとはお世辞にも言えない。

この地域では降雨量は極めて少なく、晴れた日が多いにも拘らず青空は一度も見る事が出来なかった。常時霞んでいて、晴れているのか曇っているのか判然としない。空と雲の区別も全くつかない。15日間の旅行中この区別がついたのは最後の北京だけであった。

季節によっては青空を見ることが出来るのかも知れないが、こちらの子供は青空を見たことがないのではないかと心配になる。街はいくら清掃しても常に埃っばく、とても日本のような清潔感は望むべくもない。

中国は沿岸部の大都市ではスモッグで、北部の乾燥地帯では埃で、どちらにしても大気汚染が深刻な問題であることは、中国を歩いてみればよく分かる。



晴れているのか曇っているのか

## 4. 中国人のマナー（自分さえよければ）

中国は伝統的に官僚社会である。その役人は人民に奉仕するよりは私腹を肥やすのに熱心である。日本でもその例はあるが中国の役人はもっと徹底していて、今の共産党独裁時代にあってもその伝統は生きている。従って国民の「お上」

頼みは一切ない。日本人は昔から「お上」頼みで何でもかんでもお上頼み、お上の責任である。

こうした伝統のなかで「自分さえよければ」という思考回路が定着するのもやむを得ない。しかし、その徹底振りには柔な日本人にはとても理解出来ない。いくつか事例をご紹介します。

まずは車の運転から。中国の幹線道路は片側3車線と広いがいくら広くても渋滞は発生する。渋滞すると渋滞の激しい方の車がセンターラインをオーバーして反対側車線にはみ出す。それが1車線分、2車線分となり、ひどい時は全部を塞いでしまう。当然反対車線の渋滞も激しくなるので、その先の方へ行くと今度は全く逆の現象が起こる。こうしてニッチもサッチもゆかない状態で渋滞が一層激しくなる。

中国は右側通行である。渋滞しているとき右側に何かの空地でもあれば、反対側車線から車が突っ込んできてその空地を通過しようとする。当然そのまま進めることはなく、途中で立ち往生することは目に見えているが、それでもそれを試みる運転手を多く見掛けた。中国人には「急がば廻れ」という思想はないのであろうか。



一方が全車線を塞ぎ反対側が立ち往生

その他今回旅行中に目についた事例をいくつかご紹介しよう。

道路はゴミ捨て場

道路に唾、痰を吐くのは未だにどこでも見られる現象だ。妙齢の美女が出勤のため颯爽と自宅から出てきて、道路にゴミをポイ。せっかく美人が台無しである。

平遥は明時代の城壁がほぼ完全な姿で保存されている街で、一辺1.5Kmの城壁の中に現在

でも4万人が生活をしている。当然世界遺産に登録されている。高さ10mの城壁の上から市街を眺めると市民の生活がよく分かる。個人の住宅も塙で囲んでいて、塙の中はきれいに掃除が行き届いている場合でも、塙の外は清掃されていないケースが多い。

この城壁は表面をレンガで覆っているのだが、城壁の上から見ていると城壁の内側のレンガが無いところが多く見られる。これは自分の住宅の建材として使用するため、剥ぎ取ったためだそうだ。



見事に剥ぎ取られたレンガ

銀行へ両替のため行った。入り口で番号札を取って順番に窓口に行くスタイルは日本と同じ。ところが、自分の順番でもないのに窓口へ行く人がいる。最初はちょっと何かを聞くだけかと見てみると、長々と喋っている。割り込んで行く方もさることながら、対応する行員も行員である。これが特殊ケースなのか日常茶飯事なのかは確認出来なかった。

極め付きの事例をご紹介します。ホテルでの朝食はバイキングというのが定番である。そのバイキング会場でのこと、メインは中華料理ながら西欧料理も申し訳程度ある場合が多い。その中の食パンの食べられ方を写真でご確認いただきたい。この写真は個人の食べ残しではなく、バイキング用のホテルのお皿の風景なのです。



## 5. 中国のトイレ事情

日本人（特に女性）が中国を苦手とする理由の一つがトイレである。北京とか上海などの大都会では写真のようなトイレは殆ど姿を消した。ところが地方へ行くとまだまだこの手のトイレが幅を利かせてい



開放的？なトイレ

る。30～40年前までは日本にもこうした便所は珍しくなかったの、驚きはしない。

驚くのは中国人の用便スタイルである。特に「大」については日本人の真似の出来ない行動をとる。壁の無い丸見えのトイレで悠々と座り込んで用を足している。柔な日本人では出るものも出なくなるのは必定。ただ、これも設備の貧弱ゆえと理解出来ないこともない。しかし、どうしても理解出来ないのは、ちゃんと個室になっているトイレであってもわざわざ戸を開けて、外から丸見え状態で用を足している人が多いことである。因みに彼らは入り口の方に向いて座る。女性がどうしているのかは、女性トイレに入れないので不明である。

その理由をガイドに聞いたら「中国人は狩猟民族で、彼らは閉所恐怖症」とのこと。しかし、世界には狩猟民族といわれる国は沢山あるが、こんなトイレスタイルの国民は聞いたことがない。従って狩猟民族原因説は俄かには信じ難い。どなたか本当の理由をご存知ありませんか？このドアを開けて「大」をする珍スタイルの写真を撮るチャンスはいくらでもあったが、さすがに気が引けて撮れなかった。お見せできなくて残念！

## 6. 高齢者の扱い

中国は儒教の国である（あった？）。老人を大切に作る習慣はいまでも生きているらしい。老人にまつわる話を2題紹介する。

今回の旅行でホテル代は一人平均1800円、食事は一食平均300円と大変安上がりである。これに引替え観光地での入場料が非常に高く、

100円～1500円とバラつきはあるが、概ね5～600円くらいである。これは外国人価格ではなく中国人にも適用される。ところが70歳以上は無料、65歳以上は半額というところが沢山あり、大いに助かった。因みに今回の旅行参加者は70歳以上が8名、66歳が1名、60歳以下が1名であった。

街でも田舎でも老人が手持ち無沙汰で屯している姿をよく見掛けた。朝から晩までいつでも目に付いた。大抵は固まって座り込んでいる。家庭では大事にされているのかも分からないが、することがなくやむを得ず座ることが日課になっているのであろう。日本でも似たような姿は多々あるのだろうが、絶対数が少ないので目に付かないだけなのか？或いはもう少しアクティブなのか？少なくとも写真のような老後にはしたくないものである。



こんな老後は迎えたくない

## 7 費用

今回の旅行で掛かった費用は次の通りです。（航空券は除く）  
ガイドと運転手を含め12人分を10人で負担、一人当たりの負担額

食事代 7,520円（一食当り313円）

ホテル代 25,760円（一泊当り1,840円）

入場料 4,515円

（それ以外に高齢者割引6,375円あり。高齢者割引がなければ食事代より高い）

バス代・ガイド料ほか 39,600円

合計 約77,400万円

# マレーシア・ロングステイ（その1）準備編

東海支部 No.749 山本 義典

2004年4月、南の会に加入させていただいた頃からの夢であった海外ロングステイが、本年中に実現しようとしています。これもすべて東海支部、ならびにペナン支部の皆様からのご支援の賜物と感謝しております。ありがとうございました。公務員（名古屋市職員）の任期を全うすることなく、2年を残して早期退職海外定住を目指すとは、入会当時は予想もしていませんでした。その頃の最大の関心事は、定年退職後の生活の不安（食べていけるのか？）であり、ロングステイの実現など、遙か先のこととしか考えられませんでした。同年輩の同僚との話題は定年後の安心できる生活設計であり、それは端的に言えば「再任用」（任用者＝市役所が用意した、退職後の働き口）に應ずるか否か、ということに尽きます。この頃、妻は、定年退職後も最低数年間は働いてもらいたい、と暗に希望していましたし、私自身もその頃は、定年退職後の再任用に應ずる心積りでした。

## 【退職手続】

しかし、紆余曲折を経て結局、58歳にして早期の退職を決意、2006年中のマレーシア定住開始を目指すこととなりました。

2006年3月31日の退職予定日に向けて、慌しく日々が過ぎていきます。3月13日、退職予定者全員を対象とした説明会に出席。退職後の健康保険のこと、退職金の支給のこと、退職日以降の税金のことなど、退職関係の手続き一切の説明を受けました。関連する届出書、請求書などの書類多数を期日までに作成、提出しなければなりません。

その中でも特に重要な書類は、退職届出書、退職手当請求書、住民税未徴収税額徴収方法申出書、健康保険任意継続被保険者資格申出書の4つ。ここで、の退職手当請求の結果、

5月19日に退職金が口座に振り込まれます。私の場合、定年まで2年を残しての退職のため、規則により、早期退職割増金（数パーセント）が加算されます。の申し出により、退職後の住民税の取り扱いが変わります。これまで毎月の給与から天引き（特別徴収）されてきた住民税が、4月分以降は給与の支払いが無くなるため、給与から天引きできなくなる、そのため未徴収となる現年度4、5月分を退職金から差引いてもらう（一括徴収）こととなります。なお、6月以降の住民税は新年度分となるため、6月に入ってから、直接、自宅宛納税通知書が届くこととなります（普通徴収）。の任意継続保険に加入しますと、保険料負担額が現役時代の負担額の約2倍となります。その理由は事業主負担分が無くなるためですが、それでも国民健康保険に加入するよりも有利であると考え、こちらを選択することとしました。ただし、年内に国外転出することがはっきりしているため、6ヶ月間のみ加入とします。MM2HP（マレーシア・マイ・セカンド・ホーム・プログラム）ビザを取得してマレーシアに定住する以上、歯の治療など、日本にいるこの半年間に出来ることはなるべくこの期間内に済ませておいたほうが良い、と考えています。



穏やかなスローライフを目指します

3月末、職員証（IDカード）、職員バッジを返納。この日を境に、私は晴れて自由な身分となりました。早期退職したい、そしてマレーシアという異国に共に移り住みたい、との我侷な希望を聞き入れてくれた妻には本当に感謝しています。あとは、この計画が滞りなく実現されるよう、万全を期すしかありません。

### 【LS計画構築】

退職直後、夫婦二人で名古屋港 沖縄諸島台湾各地を巡る船旅に参加しました。この旅は一義的には「長い間のお勤めご苦労様」という自身へのねぎらいの意味を込めた卒業旅行なのですが、同時に、夫婦夫々が海外ロングステイ（LS）に対してどのような想いをしているかをじっくり話し合う良い機会ともなりました。私のLSへの意気込みと、妻のLSへの想いとの間には明らかな温度差があります。過去に何度かのマレーシア旅行を重ねるうち、マレーシアの持つ魅力にすっかり嵌ってしまい、その熱い想いがいつか臨界点に達し、その結果職場を早期退職するに至ったのが私、一方、そんな私を見放すことなく一緒についていく、と言明してくれたのが冷静な妻。実際に一步を踏み出す、その前にお互いの考え方の違いを明確にし、計画の細部まで調整しておくこと、目標達成のためにはそれがとても重要だと思えます。

船上でじっくり話し合った結果、計画の概要が以下のように決定されました： LSの期間は年単位＝MM2HPビザを取得しての定住とする、住まいは、当面ペナンの賃貸アパート（不動産の購入は考えない）、生活するのに



沖縄・台湾クルーズ船「飛龍」号

必要な車は免税特権を使い日本から持ち込む、生活費は現在の水準（月額15万円）を維持、日本の持ち家は現状のまま残す（売却、賃貸は考えない）。大好きな沖縄・台湾を満喫でき、その上、LS計画の足場を固めることができたことで、この旅は大層有意義だったと思います。

### 【退職後の習い事】

船旅を終え、落ち着いてきた頃、（海外定住した後に役立つであろう）各種スキルを磨くことに余暇を費やすこととしました。有り余る余暇は退職者の特権である。ありがたく使わせていただくこととする。習い事の候補として思い付いたのは、語学、パソコン、ゴルフ等でした。

4月から愛知大学で社会人向けのインドネシア語講座が開かれると聞き、早速申込んだものの、応募者が少なかったため取り止めとなった。残念だが仕方が無い。代わりに、私の住む愛知県三好町の国際交流協会主催の日本語指導法講座に通うこととする。この講座は本来、三好町内の外国人に日本語を教えるボランティアの養成を主眼としたものであるが、海外でのボランティア活動にも応用できそう、と考え申し込む。初級コースは、5～6月の7回。講座終了後も日本語教室（ボランティア実習）に引き続き参加していきたい、と考えています。

パソコンの利用技術は海外ロングステイヤーの必須科目である。現在流行りのブログ講座とデジタル写真加工講座を申し込む。どちらも三好町の教育委員会主催のため、参加費はきわめて低廉。5～6月の7回。ブログもデジタル写真加工も、今までに体験したことのない未知の分野なので、熱中しているととても楽しく、時間が過ぎるのを忘れてしまいます。新しいことへのチャレンジは脳を激しく活性化させます。目新しいものにすぐとびつく習性を持つ私は、その習性ゆえ、日頃、妻にミーハーと呼ばれ蔑まれています。そんな流行かぶれが6月には、話題の無料電話、スカイプを始めました（スカイプ名＝gogo\_yuhbari）。東海支部でも最近始められる方が急増中。スカイプ機器（ハンズフリー・フォン、2,700円）も導入、超低予算

の機器にもかかわらず、予想以上のクリアな音声で会話できたことに驚いています。

ゴルフは三好町内のゴルフ練習場の会員となり、週に2回、打ちっ放しの練習をしてきましたが、肩を痛めたため、現在練習は休止中。ゴルフは私に向いていないかも知れません。

### 【情報収集】

ロングステイ・ビザの発給条件は度々変更を受けてきています。その理由は、ビザ発給国の思惑から頻りに制度の改正が行われるためです。今年4月1日に制度を改正したばかりのMM2HP（マレーシア・マイ・セカンド・ホーム・プログラム）ビザについても5月15日に再度、何らかの意図からビザ発給の条件見直しが行われました。

今後も随時制度改正の可能性がありますので、常時アンテナを張っておく必要があります。現時点での最新のMM2HPビザの内容を以下にまとめてみました：

（抜粋）

Terms and Conditions (New)

Financial Requirement (Updated 15 May 2006)

1) Aged below 50 years old

(skip)

2) Aged 50 years and above

Can either choose to:

- Open a fixed deposit account of RM150,000.
- OR
- Show proof of monthly off-shore income of RM10,000. such as pension scheme.

After a period of one year, participant who fulfills the fixed deposit criteria can withdraw up to RM90,000. for approved expenses relating to house purchase, education for children in Malaysia and medical purposes.

Participant must maintain a minimum balance of RM60,000. from the second year onwards and throughout stay in Malaysia under this programme.

Note: Successful applicants need to open their fixed deposits in Ringgit Malaysia (RM) only.

（和訳）

財務条件（5/15更新）

50歳未満の者の条件

（途中省略）

50歳以上の者は以下のうちいずれかを選択できます：（マレーシアにある銀行に）15万リンギットの定期預金口座を開設する、月額1万リンギットの（マレーシア国外を源泉とする年金などの）収入証明を提示する、上記の者は、1年を経過すれば、定期預金残高のうち、最大9万リンギットまでを引き出すことができる、但しその用途は住宅の購入、（マレーシア国内での）子供の教育、医療費に限定される。2年目以降は毎年、少なくとも6万リンギットの定期預金残高を維持しなければならない。

（旧制度からの主な変更点）

1年経過後の定期預金引き出し、その用途について旧制度ではマレーシア国内の株式市場に投資する目的での引き出しが認められていたが、新制度では削除されました。代わって教育費、医療費の項目が追加されたが、何故投資の項目が削除されたのか？株式投資には最低金額の制限が無いのに対し、住宅の購入については、

- 1) サラワク州の一部地域 RM350,000以上
- 2) ペナン、マラッカ、ジョホールの各州 RM250,000以上
- 3) その他の州 RM150,000以上

といった制限がつく。以上のことから、なるべく多くの外貨収入を獲得したいマレーシア政府が、株式投資よりむしろ追加資金投入が期待できる住宅購入の方へ政策誘導（？）しようとする意図を感じます。

（例）ペナン州で住宅購入した場合、追加資金  $\geq$  RM250,000 - RM90,000 = RM160,000

旧制度では定期預金の必要額が RM150,000 または US\$40,000であったものが、新制度では RM150,000に一本化されました。

日本国内の銀行から在マレーシアの銀行に米ドルで送金した場合、米ドル リンギット

の為替手数料が必要となるので、定期預金金利が3%程度稼げて(為替手数料が高率なら)初年度はそれほどの旨味は無い。

### 【資金計画】

世の中、何を始めるにもまずお金がないと始まりません。蓄えが潤沢なら、LSを始めるにも心強いし、何より、万が一の場合も安心です。何かとリスクの多い異国で暮らすつもりなら、それ相応の備えが必要でしょう。

そうした訳で、現在の資産の状況、そして将来の収支を分析してみました。

#### (分析)

現在の資産(蓄え) = 預金残高 + 株式等有価証券残高 + 退職金収入 = 約25,000,000円と仮定します。

将来の支出(10年間) = ビザ取得費用 + 渡航費用 + 10年間の生活費、ここで、ビザ取得費用 + 渡航費用 + 予備費 = 約10,000,000円、1ヶ月の生活費 = 200,000円と仮定すれば、

将来の支出(10年間) = 34,000,000円となります。

将来の収入(10年間) = (2006~2007年の収入) + (2008~2011年の収入) + (2012~2015年の収入)、ここで、

(2006~2007年の収入) = 0円

(2008~2011年の収入) = 2,400,000円

(2012~2015年の収入) = 7,200,000円

と仮定すれば、

将来の収入(10年間) = 9,600,000円となります。

算出根拠は以下のとおり：

- 1) (1) 60歳到達時から共済年金の特別支給分が、(2) 64歳到達時から本来の共済年金が、そして、(3) 65歳到達時から共済年金(所得比例部分) + 基礎年金の合計が支給されます。60歳到達時以降の支給月額を時系列に従い、(1)50,000円、(2)150,000円、(3)150,000円と仮定します。

- 2) 60歳到達は2007年12月13日です。

- 3) ビザ取得の為の拘束定期預金 RM150,000は使途が限定され生活費には流用不可のため、ここでは将来の収入から除外します。

以上の分析結果から、

10年後の資産(蓄え) = 現在の資産(蓄え) - 将来の支出(10年間) + 将来の収入(10年間) = 600,000円となります。

つまり、11年目からは蓄えがわずかに600,000円からのスタートとなります。仮にこの時点で予備費残高が底をついていれば、事実上、家計が破綻したと言っても差し支えないと思います。

#### (処方箋)

破綻を避けるために、何ができるでしょう？

生活費をダウンサイジング(縮小)するこれが一番手っ取り早いやり方だと思います。

仮に1ヶ月の生活費を200,000円 150,000円に縮小すれば、蓄えは大幅に増加します。

将来の支出(10年間) = 28,000,000円

10年後の資産(蓄え) = 6,600,000円

将来の収入を増やす

一番確実な収入増加の途は、働くことですが、マレーシアで就労ビザを取得するのは現実的ではありませんし、南国でのスローライフに憧れる私にはあり得ない話です。したがって、

私は生活費のダウンサイジングと資産運用により、将来の資産保全を図るつもりです。

なお、本編の続編(2006年7月以降~ロングステイ実現まで)はいずれ機会を見て発表させていただきます。よろしくお願ひします。



「有り余る資産」は理想だが...

# バリ 2 週間滞在記

東海支部 No.233 佐藤 光豊・恵子

「南国暮らしの会」が発足した初年度から会員なのでかれこれ6～7年経っている。この間私は友人とあるいは1人で南国（主としてフィリピンとタイ）に何度か旅をしている。女房とはパッケージツアーでアジアとヨーロッパの一部の国を訪問して来たが海外への個人旅行はして来なかった。

しかしここに来て、俄然2人で南国へ「終の住処」探しの旅を実行に移す事に決めた。その手始めが今回のバリ行きである。ご存知のように現在はインターネットで格安航空券を発見しても、オイルサーチャージをかなり取られて必ずしも安くないのが財政的に豊でない我々には痛い。

さて、今回のバリ旅行はウブドとサヌールを訪れることにしていた。ウブドはどうかバリ行きの人にとっては”お伊勢参り”的場所で、芸術、宗教的色彩の濃い村である。一方サヌールは子供の頃から海が好きだったので、イメージ的にも椰子の木が生い茂っている南国の浜辺ということで是非訪れてみたかった。

去る6月29日中部国際空港をマレーシア航空で飛び立ちクアラルンプールでストップオーバーの一泊。翌日バリのデンパサル着となった。格安航空券ではしばしばあることだが、航空会社の商売上旅行者にとっては余計な国の都市にストップオーバーさせられる。これまでは長くても4～5時間空港内で待っていれば次の飛行機に乗り換えられて目的地に着けたが、今回は翌日の昼頃迄乗り継ぎ飛行機が飛ばないので、仕方なくクアラルンプールの中華街のど真ん中にある安ホテルを事前に手配しておいた。空港から市の中心へタクシーで乗り込んだのは今回が初めてだったが、そしてその意義がまるで無い訳ではないが、往復のタクシー代、宿泊

代、食事代を考えると案外馬鹿にならない費用がかかっており、やはり多少高くても直行便で飛んだ方が賢明だったような気がする。

さてバリでの最初の宿泊地はウブドだが、グラライ国際空港からシャトル・バスが出ている。空港事務所の窓口には行き先と正規の料金が書いてある。私は乏しい我が家の財政上で出来るだけ交通費関係は相手業者の協力を仰ぐ事しているので、寄ってきた客引きと料金の交渉をすることにした。（尚、窓口の料金表はガイドブックとは異なり、改訂され値上げされていた）。

バリでは乗り物関係はほとんどの場合運転手との値段交渉が必要である。しかしその際明るく冗談を言いながら交渉する事が肝要である。わが女房は私がいつもタクシーや土産物屋でかなりドラスティックに交渉した後値段が落ちつくと、相手が可哀想と私を批判する。しかし我が家の財政の自衛上仕方がない。まともに相手の言いなりになっていては、少なくとも2～3倍近くの価格を呑まされることになる。それにいやしくも私も商売人の端くれであった。昔会社勤めの頃アメリカやカナダ、オーストラリア等で代理店の社長と夜を徹して価格交渉をしたこともある。それに女房には、交渉の結果仮に自分が相手業者の言い値をかなり値切って相手がそれで折れたとしても、彼らが手にする現金は今日明日の食料や子供のために必要なお金の一部となるかも知れないという意味で、あながち私が一方的に責められることもないのだとも話して聞かせた。商売というものは、時には利益がほとんど上がらなくても売らねばならないこともあるのだから。何事にも気前の良い女房は半信半疑で私の話を聞いていた。或る日本人夫婦と出会うまでは。



ウブドのバンガロー・プールサイドにて  
(中央 佐藤恵子 両端 Kさん夫妻)

ウブドの宿はインターネット上でYさんのHPで知ったバンガローに日本から取り敢えず2泊予約を入れておいた。結局その宿には、従業員の接客態度も良いし、私のこだわりのプールも清潔で気持ち良く泳げるし、毎朝朝食をサービスしてくれる屋根付きの開放的かつ素晴らしい田園風景が眺められる食堂等々の要素のために8日間居続けることになってしまった。いやもう一つ重要な要因はKさん夫婦との出会いである。Kさんは誠に偶然なことだが、話をしているうちに私のはるか昔の中学の後輩に当たることが判った。名物先生や近くのお寺、江戸川の川原等何たる奇遇かと思った。Kさんはこれまでパリに38回訪れている。東京でヨガの指導をしており、奥さんはモダン・ダンスの踊り手かつ先生でもある。こうした偶然もあってか私達はよく話した。そして色々な情報を教えてもらった。時には一緒にケチャを観に行ったり、和食堂へも出かけて仲々旨いアラック(地酒)も味わった。

ウブドの中心の繁華街は比較的わかりやすい。土産物屋のおばちゃん達を冷やかしながら歩くとかなりの距離を歩くことになり、足腰の弱い女房などは帰りは必ずタクシーで帰ろうと言う始末。ここで自分の料金交渉となる訳だが、Kさんと話している時、ウブドは坂がきつい所が結構あるからレンタル・モーターバイク

が適しているとのこと。Kさんは既に自前のウィンド・シールド付ヘルメットを日本で購入し、ここの定宿バンガローに常時預けている。私は30年以上もモーターバイクを運転していないため、果たして女房殿を後ろに乗せて大丈夫かなといささか不安だったが、結局Kさんの特訓を受けて乗ることになった。確かにモーターバイクは便利である。一挙に行動範囲が広がった。町はずれのスーパーからケチャが催される寺院、更には和食堂へとまるで20代の若者に戻ったように女房を後ろに乗せて走り廻った。モーターバイクは自転車より危険ではないかと考える人が多いかと思うが、フラフラしている自転車より方向指示も出せるモーターバイクの方がむしろ安全であると言っても良いかも知れない。実際タクシー運転者に聞いてみても、自転車の方が怖いと言っていた。それにウブド中心街では車はかなりスローで走ってくれるのでほとんど危険を感じなかった。但し昔モーターバイクに乗った経験がある人、或いは現在乗っている人という条件がつくかも知れない。

我々の泊まったこのバンガローには余り日本人客はいない。滞在期間中でも結局Kさん夫婦と我々だけであった。あとはフランス人夫妻、オランダ人夫妻、ドイツ人の若夫婦等々。彼らは皆気さくである。各々のお国柄を反映してか、



ウブドは芸術村 街路にも素晴らしい彫刻が立っている



古代遺跡 ゴア・ガジャ(象の洞窟)入り口にて

フランス人はやはり一番華やかな振る舞いだっ  
たし、オランダ人とドイツ人は地味で、特にド  
イツ人若夫婦は2度もこのバンガローを訪れて  
決めるような慎重さを見せた。ただ彼らに共通  
している点、それは常に奥さんがリーダーシップ  
をとっており、旦那衆は後からしずしずと従っ  
ていることである。

2週間の内、残り4日間は当初の予定通りサ  
ヌールに移ることにした。サヌールは海沿いの、  
バリでは老舗のリゾート地である。当地の第一  
泊目の宿はやはりYさんのHPで知ったプール  
付バンガローに決めていたが予約していなかつ  
たので、ウブドを去る前日電話を入れた。宿に  
着いてみると私も予約時に確認を怠っていたが、  
従業員から宿泊代の5割増しの値上げを通知さ  
れた。重い荷物もあることだし今更他を探すの  
も面倒だったので仕方なくその新レートに同意  
した。しかしこの宿は曲者だった。プールは子  
供用としか思えない程小さく、しかも建物と建  
物の間に窮屈そうに造られていてとても水浴び  
などしたくなるよう代物ではなかった。朝食が  
付かず、バスタブ無しは当初から判っていたが、  
太陽熱利用のホットシャワーも当日快晴だっ  
たにもかかわらず昼間からその機能はほとんど果  
たされていなかった。明日は宿替えをしなけれ  
ばとその夜はただ眠るだけに利用した。

翌日チェックアウトのためカウンターに近づ  
くと昨日の女性従業員でなく、柔和な感じの女  
性が対応したので、この宿の経営者がマネージャー  
と判断し、実は貴女の宿は日本で或る人のHP  
で知ったが、その時の部屋のレートはこれこれ  
だったのでこの宿に来たが、昨日到着時に一方  
的に値上げを呑まされた旨話してみると、彼女  
は誠に申し訳なかった、そういう事情ならばHP  
掲載のレートで結構ですと笑顔で応えてくれ  
た。そしてその証拠となる物は持ってますかと  
聞くので、プリントアウトしたページを見せると、  
当方からこの方に今年初めからレートが変わ  
った旨伝えたいが、とのことだったので了承  
した。彼女は何度も済みませんでしつとて言い、

私も相手が意外に話のわかる女性だったことか  
ら、いつのまにか不満が解消され機嫌が直って  
しまった。そしてこれから先楽しい旅を、また  
よろしかったらこの宿にも戻ってきて下さいと  
も言い、互いに握手までして別れた。部屋のレ  
ートが5割上がったと言っても日本金で考えれば  
たいした差ではないかも知れない。しかし気分  
の問題は残る。従って私のような人間は責任者  
に言いたいことは必ず言わせてもらうことにし  
ているので、今回功を奏したといえるかも知れ  
ない。

さてその後近くのもう一つの候補バンガロー  
を訪れた。こちらはプールはないが、朝食付、  
エアコン、バスタブ付、それに冷蔵庫も設置さ  
れており部屋のレートは少し高かったがほぼ申  
し分なかった。風呂の湯も豊富に出た。一番有  
り難いのは冷蔵庫である。バリ・インドネシア  
料理の中で、椎名誠氏が「あやしい探検隊バリ  
島横恋慕」で「黄金の三品」と太鼓判を押して  
いるのが「ナシゴレン（焼きめし）」、「ミー  
ゴレン（焼きそば）」そして「サテ（焼き鳥）」  
だ。確かにこれらは日本人にも受け入れ易い食  
物ではある。しかしそうは言ってもやはり毎日  
のように食するといささかゲンナリしてくる。  
そこでイタリア料理店や中華風バリ料理店へ行  
ったりもするがやはり参ってくる。そんな時に冷  
蔵庫があるとスーパーで買い求めた牛乳、パン、  
ジャム、卵、ハムそれにビール（ビントラン）等  
を入れておける。こうした食物とインスタント・  
ラーメン等を用意すれば元気がなくなった胃腸  
にも優しいし、費用的にもかなり軽減し正に一  
石二鳥である。

ついでに考えたが我々が南国に滞在する場合  
最重要視しなければならないのは、食事問題で  
はないだろうか。確かにバリでもタイ・フィリッ  
ピンでもレストランや大衆食堂、屋台等で日本  
に比べればはるかに安く食事をするのが可能  
だ。しかし問題は食事の内容、味付けではな  
らうか。例えば「ナシチャンプル（混ぜごはん）」  
などはワルン（安食堂）に行き自分の好きなお

かずをご飯の上に乗せてもらうが、これがほとんど油で炒めた物が多い。我々夫婦は日本に居る時も出来るだけ肉類は少なくし、また油物もあまり摂らないようにしているが、ここ南国でこうした食物ばかり食して果たして大丈夫であろうかと言う疑念が湧いてきた。摂取油量の問題、古い油かも知れない。肉の食べ過ぎ、野菜不足等々「生活習慣病」という言葉が脳裏に浮かんでくる。ウブド滞在中も時折和食レストランへも出かけた。洋食レストランやワルンに比べればやはり少し費用がかさむ。出される料理も旨いのやら旨くないのやら色々だ。とすると短中期滞在を前提に考えれば、やはり”自分の健康は自分で守る”主義で行くとなると、自分達で適度に食材を買い料理する必要があるように思える。わが女房は今のところ”こんな所まで来ておさんどんはやりたくない”と宣言しているが徐々に説得していく必要があるだろう。最悪の場合彼女に代わって自分が料理することも覚悟しなくてはならないかも知れない。

私達の隣の部屋にいつも上半身裸、短ズボンの中年の男性が滞在していた。顔も身体も日焼けしていて当初見かけた時はこちらの人かと思ったくらいだ。ところが話してみるとこの男性（Nさん）は福岡出身であることが判った。毎回一人でやって来てこのバンガローを定宿にしている。奥さんは”そんな所で何もしないで暮らすのは真っ平ご免”と一度も来ないらしい。私の長年の親（悪）友にも似た者が居る。奥さんはおよそ海外旅行に行きたがらない。最近では孫4人と遊んでいる方が楽しいと尚更出なくなった。”南国へ行きたかったら一人で行きなさい”と言い渡されている。

さてNさんはいつも生後間もない子犬を抱いていた。何でも死にそうだったのを看病して体調が回復しつつある、とのこと。この子犬は我々の部屋のベランダの前をヨチヨチ歩いている時に、いくら声をかけてもこちらに来ない。必ずご主人様の部屋に戻って行く。まるで一宿一飯の恩義を感じているようだった。ところが我々

がこのバンガローを去る日のこと、早朝四時頃だった。戸外で誰かが声高に話しているのが眠りながら聞こえた。ことによったら例の子犬かなと思いつつまた眠りについた。朝八時頃起床いつものとおりベランダに女房が出るとすぐ宿の若者が”ブラックファスト？”と聞きにくる。隣のNさんの部屋の扉は固く閉ざされたままだ。この宿の入り口の扉は一風変わっていて、仲々こった彫刻が施され、観音開きになっており、外出時は大きな南京錠で施錠する。

Nさんは恐らく疲れて眠っているのかなと想像した。昼頃帰国のためのパッキングも終え中庭に出てみた。Nさんが宿の支配人達と話していた。今から帰国の途につく旨話そうと近寄ってみると目が真っ赤になっていた。子犬のことを尋ねるとやはり早朝に死んでしまったとのこと。オーナーの奥さんの配慮で裏庭に葬って来た、一晩中子犬を介抱して眠れなかったとも語った。私はNさんは眠れなかっただけでなく子犬の死を悼んで目を真っ赤にしていたのではないかと感じた。空港へ行く白タクが待っていた。私達はいつかまたお会いしましょうと握手して別れた。

サヌールからグラライ空港へ向かう途中、車窓から南国の景色が次々に変化するのを眺めながら、黒光りする上半身裸のNさんの姿が思い出された。会って3～4日間、当然のことながらNさんの事を良く知らない。しかしたった一人九州からここ南国の定宿へ飛んできて、地元の人達とバリ語で通じあい、死にそうな子犬を夜も眠らずに介抱していた、この私と同世代の日本人男性を想う時、もしかしたら「生き馬の目を抜く」どころか犯罪天国となってしまった殺伐とした現代の日本とは異なり、親切で心豊かなバリ人達に囲まれて生活しているNさんもまた心優しい「南国の人」になっているのではないか。そんな思いがふと心をよぎった。

## 特集 「私の大きな失敗、小さな失敗」

### 飛行機に乗り遅れる？

関東支部 No.740 渡辺 亜雄

当時、私は一年に2～3回豪州へ出張していました。

その日の出張目的は私の会社が豪州に所有する炭鉱を訪問して下さる(いずれその石炭を買って下さるであろう)大切なお客様をシドニー空港に待ち受け、ホテルまでご案内し、また夕食を共にして、炭鉱へご案内することでした。

その為にはお客様よりひとつ早い21:00成田発の便に乗り、先にシドニーに到着している必要がありました。

当時は慣れもあり時間ギリギリに東京駅へ向かいました。ちょうどタイミング良く(実は悪く)成田エクスプレス(NEXT)がホームに入ってきました。

私が「トン」とその電車に乗ったところ即扉が閉まり発車しました。その瞬間は「待ち時間ゼロだ、やった！」などと叫びました。

ところが、ところがです。なんとその電車は成田空港ではなく横浜に向かっているではないですか。

“NEXT”ですから次の停車駅は「横浜」とのこと、頭からは血が引き顔はまっ青です。横浜に着いて駅員に尋ねると次の上り成田行きは一時間後とのこと。私が目指す“Qantas”便には物理的に間に合いません。

成田エクスプレスより早い電車は勿論ない訳で、咄嗟にタクシーを思いつきました。

駅を出てタクシー乗り場に駆けつけ、燃料が足りないなどの理由で3台に断られはしたものの、ようやく4台目に乗り込みました。運転手には事情を話し、出来る限りのスピードで走ることをお願いし、あとは運を天に任せました。当時、千葉県津田沼に住んでいましたので高速道路上で津田沼を通過した時点で時間によってはその日の飛行機を諦めて家に帰るか、それ

ともそのまま成田に向かうかを判断することにしました。

結果は出発15分前のギリギリに空港カウンターに到着、何とか目的の飛行機に搭乗することができました。受付嬢と飛行機まで猛ダッシュしたことは言うまでもありません。

機上の人になり飛行機が飛び立った時、全身から力が抜けていく自分を今でもハッキリ覚えています。

シドニー空港ではお客様に本『事件』のことはおくびにも出さずニコニコとお出迎えし、会食を共にしました。そのお陰で後日35,000トン(約1億円)の注文もいただきました。

横浜でタクシーに乗るときは金銭のことなど考えもしませんでした。35,000円の代償はかなり堪えました。

南の会の皆さんは決してそのような軽率なことなさないでしょうが旅慣れた方ほど十分に余裕をもってお出かけ、又お帰りください。

<Route 66>

### ローマ地下鉄でスリに遭う

関東支部 No.60 渡辺 義郎

海外旅行でスリに遭う、あるいは盗難に遭う経験は結構多くの方が経験しているのではないのでしょうか。私の場合もローマ地下鉄でカードをすられました。これがパスポート、多額の現金、さらには怪我をするなどとなれば一大事ですが、結果的に損害がなかったので「小さな失敗」と言う事になると思います。

今年の5月～6月にかけて会員4家族の8人(他に会員外が6人で合計14人)で地中海クルーズに出かけました。この内、私を含め2名が盗難に遭いました。比率としては大きいと思います。クルーズの手配をした代理店の方の話では、昨年と同じコースでは80名の団体で10%の8件の盗難があったとのことでした。

ヨーロッパは、歴史的な建造物、美術館・博物館が多く観光には絶好ですが、悩みはすり、盗難の多さです。盗む方の技もなかなかのもので、これに加えて安全な日本からの観光客の油断と、パスポートにしる現金にしる金目のものを多く持っているなど、特に日本人観光客は狙われます。この煩わしさが、最近のユーロ高と共にヨーロッパ旅行の欠点です。

私もセキュリティ・グッズは一つでなく、移動中はチョッキ型の貴重品入れに現金・パスポートを入れ、航空券、トラベラーズ・チェックなどの細長い物は胴巻き型の貴重品入れを使用しました。さらにホテルに着いた後の市内観光にはズボンの中に隠しポケットを着用しました。

クルーズ船に乗る前の5月25日ローマ市内観光を家内と二人連れで楽しんでおりました。地下鉄のレプブリカ駅で降り、近くの教会を見ながらスペイン広場まで歩き、「ローマの休日」のスペイン階段を見て、さらにボポロ広場を歩いてナボーナ広場まで歩きます。ローマは既に夏で気温も高く歩くには大変ですが、ローマ市内は地下鉄の路線が少なく、バスは不慣れで乗れないこともあり、ひたすら歩け歩けです。欧米の大勢の観光客も同じように歩いています。この段階では安全を疑わせる様な雰囲気はありません。

さて、すられたのは地下鉄の中です。歩き疲れて午後5時頃、テルミニ駅にたどり着きました。ラッシュアワーで帰宅する人が大勢います。テルミニ駅は大きな駅でA線、B線が交差しており目的のホームまで二人でうろうろしておりました。ここでもう目を付けられたのでしょう。入ってきた電車になだれ込むように乗り、入り口近くに立っていました。一駅行かないうちに前に立っている人が身振り、バッグが空いていると言います。下を見るとバックのチャックが開いています。それでもすられたことに気が付かず「あぁ開いているな」と思っただけです。すると隣に立っている男の子がしきりに自分の手首を示します。思わず自分の腕を上げ手首を見ます。ここでやっと何か取られたと気づき、

瞬間的にバックの中の財布がないことがわかりました。この通勤時に一人で居る10歳くらいの少年がぐるであることは明白です。手を挙げさせて脇が空いたところを探ろうとしたようです。勿論大人の仲間が周辺にいるのでしょう。ところが財布の中にはお金は入っていないのです。宿を出る時に現金は隠しポケットに入れておきました。あるのはクレジット・カードだけです。そのことを思い出して騒がずに、カードを差し止める必要がありますので2駅先のコロッセオ駅で降りました。盗難時の連絡先を手帳に記録していましたが、そこに電話しようとした。駅構内の公衆電話に行くと、驚くことに電話の前に日本語でカード盗難連絡先が掲示されています。それだけ盗難が日常茶飯になっているのでしょう。

結局、その連絡先は役に立ちませんでした。カード会社共通の連絡先のように日本語のコンピュータ音声でカード番号、有効期限を入れさせます。ところが最後にカード裏面に記載された一連の数字の下3桁が必要です。この数字はインターネットなどでカードを使う時に要求されたことがあります。普通必要ないので記録していませんでした。

次にカード会社の案内にあったロ・マ支店に電話しましたが、営業時間外とのアナウンスが流れるだけでした。最後に日本出発時にメモしたカード会社の盗難時受付電話に掛けました。800番通話で最初の通話料以外は無料で、場所は日本であるらしく、きわめて事務的に聞いてきます。氏名、住所、電話番号です。意外なことにカード番号、有効期限などは聞かない。必要と思えば手帳にメモしてあった番号は不要でした。カードを盗まれなくても手帳を盗まれた場合を考え番号を漢数字で入れてありましたが必要ありませんでした。こうして手続きが終わり即時にカードは無効となりましたが、困ったことには2枚持参したカードの内、盗まれたのがどちらか判らなかつたことです。宿に帰れば残りのカードがありますが、その場では判らず結局2枚とも無効にしました。これ以降、クルーズ船でも家内が持参したカードに頼ることとな

りました。帰国してから調べたところ不正利用はされていませんでした。1時間以内に停止したことで使用する時間が無かったか、あるいは署名が漢字で真似が出来なかったか、不明ですがともかく被害はありませんでした。

これにひきかえクルーズの旅は安全の面では数段優れています。客室には金庫があり、パスポートなどの貴重品はそこにしておくことが出来ます。金庫はカード開閉式で、そのカードを持ち歩けば、誰かが部屋に入っても取られる心配はありません。各地の港での観光は一日分のお金だけを持てば良いので盗られても被害は少なく気が楽です。クルーズは船がホテルで寝ている間に次の観光地に着くので、船中の色々な楽しみと共に効率的に観光でき、すっかり気に入りました。今回の地中海クルーズは、出港&帰港地はローマ(チベタベッキア港)で、ナポリ、ベニス、ドブロブニク(クロアチア)、メッシーナ、バルセロナ、カンヌ、リボルノに寄港する1泊2泊3日のクルーズでした。ちなみにクルーズ代金は43.8万円(チップなど諸費用を含む2人分)、飛行機代は香港廻りの格安チケットで2人分で15.9万円(燃料サーチャージ、空港税などを含む)でした。



クルーズ船 Carnival Liberty (ベニスにて)

話は変わり旅行保険をどうするかです。何もなければ保険料が惜しいし、何かあれば掛けなかったことが悔やまれる、と私はいつも迷います。今回はクルーズの前後合わせて24日間でしたが、インターネットの比較サイトから探してもっとも安い保険を掛けていきました。結果的には保険の世話になることはありませんでしたが、船中のサウナで滑って痣になるくらい打っ

たこと(頭を打たなくて幸い)、シチリアのメッシーナに寄港中にアメリカの方が船の前の道路で交通事故に遭い亡くなったことなど、まかり間違えば自分も大事になることもありました。やはりカード付帯保険を含めて保険を考える必要があるように感じました。

## セブ島 「コロナ事件」の教訓

### 「海外ロングスティ」夢破れて今思う 現地に住む人の情報が「宝」

私は「南国暮らしの会」の新会員となりましたAと申します。「サロン会」にビジターとして参加させていただき、温かく楽しい雰囲気の中にも充実した活動内容を伺い、是非お仲間にとの思いで加入しました。

皆様への手土産代わりに、私の海外ロングスティを目指した「夢のセカンドライフ」失敗談を、ご披露させていただきます。

数年前、こんなに素敵な会があることも知らず、縁あってフィリピンの風土や人との交わりから、現役を退いたら「海外ロングスティの候補地に・・・」との思いを描いていました。

ちょうどそんな折、私の友人の紹介との触れ込みで、フィリピン・セブ市の現地企業B社の副社長 K氏(日本人)が訪ねてきました。

K氏の来日目的は「セブ島のリゾート地のなかに、日本人向けの介護施設を計画中で、その隣接地を十数区画ほど確保してあるので、借地権購入希望者を募集している」とのことでした。

この日、K氏に同行してきたD氏は、K氏のためセブのB社に自身の退職金を出費し、そのうえ夫婦で借地権購入希望者を募る代理店の役員も兼務していました。

D氏はいかにも温厚・朴訥な印象で、嘘が言える人物とは思えませんでした。後日の調査で、まだこの時点では彼自身もK氏に騙されて利用されていることを知らなかったようです。

しかし結局は、D氏も資産を全て奪われたうえ、詐欺の共犯・加害者の立場となりました。

K氏の話は、「ロングスティ用のマンション

や借家では、バリアフリーのための住居改造が難しく、介護生活には適しません。そこで50年、75年の借地権を設定した土地に、思い通りの自分の家を持つほうが何倍も価値がある」とのことです。こうした提案は、当時の私にとって、大変魅力あるものとして受け止めました。

結果、夢を実現させる契約をし、全て現金で決済しました。もちろん契約に際しては、友人の弁護士の助言に従い、契約書の文面の修正を含め、十分に検討し、リゾート地の開発企業（比国では一流企業）の現地責任者からB社に土地を販売した担保となる文書も求めたうえのことです。

しかしK氏は、日本では以前から、幾つもの詐欺まがいの事件や、取り込み未遂を働き、自己破産して、その後フィリピンに舞台を移した詐欺師でした。

私は、その後2年ほどして、購入したリゾート地を見に行きました。ところが案内をしたB社の現地役員が、街路も区画も造成途中の通路から、その一角を指差して「多分あのあたりです」と自信無げに話すのに「何を今更・・・」と、苛立ちました。私は早速、副社長のK氏に「なぜ購入地を示す杭なり、看板が無いのか」問い詰めました。K氏は「ご指摘はごもっともです。しかし、土地造成中に台風による浸水事故の訴訟で、工事がストップしたままなので」（事実裁判中）と、いかにも自身も被害者であるかの弁解でした。

私はまだ、この時点では「土地の引渡しが遅れそうだな？」程度の認識でした。私の甘い予測が外れ、10人に及ぶ被害者と8千万円規模の大きな事件として発覚するのは、それから更に、一年半を過ぎてのことです。

## リスクが大きい借地権契約

### 「名義借り」はトラブルの元

2004年12月、フィリピンB社・副社長K氏のパートナーであるD氏から、突然に「相談したいことが・・・」との連絡が私のところに入りました。

D氏は、セブ市でK氏と焼肉店も共同経営していたのですが、失敗して、この年B社の新事業の顧客獲得を命じられ帰国していたのです。

ところが、顧客の確保が進まないことで、K氏から「早く契約金が入らないと大変なことになる」と、リゾート地販売で開発業者に多額の支払い残があることを示唆する内容のメールがきたというのです。D氏は「事実なら申し訳ないことに・・・」と私に会いに来ました。

調査の結果、この件の被害者は私だけでないと知り、2005年早々に被害者の会を「コロナの会」として、実態の把握を含め、セブでの告訴・被害の回復を目指す活動が始まりました。

しかし、被害回復に向けた私達の活動には、更に大きな試練と、サプライズが続きます。

会の活動がスタートして間もない時期のこと、マニラに住む、ある日本人のグループから「フィリピン社会に有力な人脈があるので、事件解決のサポートをしましょう」との申し出がありました。「コロナの会」は「これぞ地獄で仏」との思いで、彼らサポータとの間に調査・協力の経費と若干の費用弁償に加え、事件解決時点での成功報酬の提供を決め、共同作業で事に当たりました。

三ヵ月後、サポータと会のチームプレーで、K氏の追及も含め、かなり具体的に進展したかに思えましたが・・・結局K氏の「約束不履行と雲隠れ」によって三步前進・二歩後退となりました。しかも、サポータの調査名目の出張が、家族サービスであったり、裏でK氏に、彼等のグループ事業への参入を求める、そんな意図すら感じられました。

昨年のはじめは、私にも「コロナの会」にとりましても「労多くして功少なし」の感じもしますが、この間「会」の多方面への働きかけで、危うくK氏の詐欺から難を逃れた、日本企業やセブ在住邦人もおられます。

私自身が思わぬ事件の被害者となりましたことで、思わぬ勉強による思わぬ発見。そして、

新しい人間関係が広がり、リタイア人生とは思えぬ楽しくも多忙な日々を過ごしております。

ただこの数年間の事件の経験から、

日本人が土地取得を出来ない外国での、借地権を含めた不動産売買は、個人にはリスクが大きすぎる。

あらゆる契約で、現地人による「名義借り」は、事故の元。

裁判は年月との根競べ、訴訟で勝っても出費

で赤字。

先方から近づく親切な他人に、過度な期待は禁物。

スローライフは、セルフサービスが基本（学びながら自分の手で）

・・・そんなことを学んだ気がします。

やはり「他人の失敗は蜜の味」でしょうか。では皆様もお気をつけて。

## 「平澤 信 世界を旅する」 アフリカ紀行

### モロッコ編（その一）

関東支部 No.40 平澤 信

平澤 信さんからは、過去にも旅行記を寄稿して頂いております。今回、数回にわたり「平澤 信 世界を旅する」と題して、北アフリカ、中南米の旅行記を掲載します。

#### VISAと旅日程

'02年（平成15年）

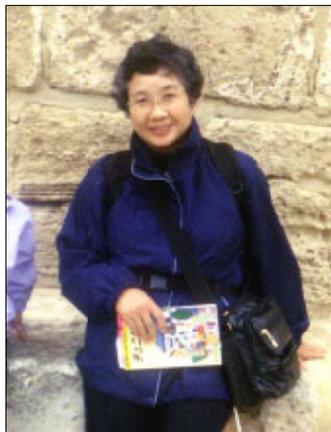
1月22日（水）チュニジアの首都チュニスからモロッコのカサブランカへ。フライト時間3時間。チュニス航空往復券使用で193ユーロ（23,466円）片道料金の方が高いと言う理不尽な説明と、この国の物価からすればかな

り高い気もするが、比較する根拠もなく、渋々購入する。

モロッコには38日間滞在。モロッコの主要都市を時計回りで1周する。

#### チュニスからモロッコのカサブランカへ

1月22日（水）チュニス発8：30、モロッコ着11：30分。機内食は、パンばかりが多く、蛋白質はチーズ一切れと言う粗末なものであった。



現在のチュニジアの経済状態を表している。でもみんな羊のようにおとなしくその食事をおいているので、私も羊になって空を飛んだ。

空港から市内まで、専用列車に乗車。なかなか都会っぽい感じの列車だ。料金は、30デラハム（D）（361円）。カサブランカのカサポール駅を降りると、広い大通りは、椰子の並木道で、ここも南国であることが分かる。駅から3分ほど歩いたところで、若い男性が寄ってきて「今日のホテルは決まっているか？」とか「どこを観光したいか？」という。

モロッコの男は、荷物を運んだからといってはチップをよこせだの、勝手に観光ガイドをしては法外のお金を要求するから注意するようにとガイドブックに書いてある。

「ソレ、もう来たか！」とホテルは決まっているし、行きたいところも決まっている。と言うと、「そのホテルへ連れて行ってあげる」と



カサブランカの街

言う。始めは相手にしていなかったのだが、悲しいかな私は重症の方向音痴。道端で地図を広げて、これから行くホテルの位置を確認していると、彼が覗き込んでそのホテルを知っていると言う。14kgの荷物を引っ張って歩くのは結構疲れる。ポーター代わりに使ってやろうと思って、「荷物持ってくれる？」と言うと彼は笑顔で荷物を引っ張ってくれた。

「カサブランカは悪い奴が多いから気をつけるように」と、歩きながら私に注意してくれた。「君が一番危ないのでは？」と思いつつ、睨みを利かせながら歩いた。ホテルに着くと、重い荷物を持ち上げてくれたうえ、フロントに「日本のこの方を、清潔で明るい部屋へ」と掛け合っている。良い奴？だったから、少しチップを弾まねばと25Dデラハム（約300円は、高額チップ）を差し出すと彼は、「旅人に親切にするのは当たり前で、チップはいらない」と言う。何回渡そうと試みても結果は同じであった。「カサブランカを楽しんでください」と言い残し、きびきびとした足取りで巷へと消えていった。

自分の態度を棚に上げて言わせてもらえれば、私のガイドブックにはアラブ系の人々は危険だと、徹底的に悪く書いてある。これを鵜呑みにしたのがいけなかったようだ。実際は、素朴で、心の暖かな人達であった。因みにここのホテル代は、120D（1,400円）シングル室。普通のビジネスホテル風。

### カサブランカの街とメディナ（アラブの商店街）

カサブランカの街は、高層も多く、どっしりとした趣のある現代的な街であった。それでいて、大通りを少し入れば、古い家の台所で、カマドを使った昔からの庶民の暮らしも見る事ができる。

この国もかなり親日的で、日本人の私には居心地よい国だった。メディナや商店街では、私を買わない事を知っていても、毎日のように、アラビア・パンやナツメヤシの砂糖漬け、乾し肉などを、ただでくれた。

日本人びいきの人達が多いのは、先輩旅人達のマナーが良かったことの賜物と思ったが、日本人は気前が良いとのイメージも強い。同じ東洋人でも、「中国人」と言うと扱いが全く違ってくる。しつこく話し掛ける商店街の人に、「私は中国人です」と言ったら、唾を吐きかける仕草をされた。「私は韓国人」と言えば、中国人より扱いは良い。でも日本人よりはかなり悪い。

1月24日（金）モロッコ最大のモスクで、勿論この街一番の観光名所でもあるハッサン2世モスクへ市内バスに乗って出掛けた。バス代片道2.5Dデラハム（約30円）。バスは座れるほど空いてはいなかった。立っている私を見て、かなり高齢のご婦人が、よろけながら席を譲ると言った。これを見た若い女性は自分が席を譲ると言い、高齢のご夫人を座らせた。そして、この女性、私のためにわざわざバスを途中で降りて、ハッサン2世モスクへの道案内もしてくれた。日本のバスの中で、こんなに大事にされた事はないので、親切に甘えて良いのか戸惑う。こんな良い人達を初めから疑い、身構えていた自分を恥ずかしく思った。

ハッサン2世モスクは、残念な事に金曜日でお休みであった。でも、この巨大な外観を見るだけでも来た甲斐があるというもの。立地条件も、太平洋の大海原に面した、広大な敷地は9ヘクタールあり8万人収容可能で、モスクの内部だけでも2ヘクタールあり2万5千人収容できると非番の警官風のガイド（？）が教えてくれた。（彼は、フランス語風の英語なので、私は殆ど聞き取れず、この数字は筆談となった。）

足元まで海水が来るモスクの絶景を楽しんでいたら、先のガイドが、モスクの内部の写真を撮る少しの間だけなら見せてくれるという。地下の宿泊施設などを見ることはできなかったが、モスクのハイライトは見せてもらった。私には、これで充分であった。

モロッコ絨毯の柄を大理石に彫り込んだと言われる内部装飾は、気が遠くなりそうな豪華さと緻密さだった。信仰をもたない私をも威嚇す

るに十分な迫力があつた。

回廊の地下は、遠くからの参拝者のための宿泊施設になっていて、浴室やカフェもあり、至れり尽せりなのだが「このモスク運営のために徴収される高い税金は国民の負担となっている」とガイドブックには書いてある。



ハッサン 世モスク

### 驚きの和食

巨大で、豪華なモスクに酔いしれた後、モスク周辺の庶民の暮らしを見て歩いた。高層住宅が多く、市の中心部を離れても、かなり都会っぽい感じがする。

食べ物屋が軒を連ねる街中で、皿に盛られたうどんの見本を見た。「ヌードル(うどん)ですか?」と尋ねたら、若い店主は、笑顔で「そうだ」と言う。久々にうどんでも食べて、胃を喜ばせて上げようと、店内で待つこと20分。キッチンからは生臭い匂いがする。不思議に思ったが調理方法が違うのだと思った。

しかし、出てきた物は、イカそうめんのように細く切られたイカの天ぷら(カラマリ)であった。しかも大皿に山盛り。即座に頭を切り換えて「天ぷらご飯にしよう」と思って、ライスを頼んだ。だが、出てきたご飯は、濃い紫色に染められた、甘い甘いライスプディングであった。日本人の食習慣からすれば、胃が Dengri 返り そうな奇妙な天ぷらご飯であった。頼んでも頼んでもトンでもない物が出てくる不思議さに苦笑を禁じ得なかった。あんなに念を押したのに、言葉(英語)は全く通じていなかったのだ。

### メディナで迷子に

カサブランカのメディナは巨大で特別面白い。今まで見てきたチュニジアのメディナは、売ら

れている物が、少し時代遅れな気がしたが、ここは、現代的な実用品が主で、買い物嫌いの私でさえ退屈しなかった。

だが、売られている繊維製品等は、かなりいい加減な物も多い。ジャンパーを買おうとしたら、新品なのに前ボタンが2つも取れていて、スベア・ボタンも無く前が閉まらない。それでも店主は「半額にするから買ってくれ」と必死でいう。この厚かましが並でない。

冷やかし半分で、この巨大なメディナの奥に入り過ぎて、私は地元の人の手助けなしには外に出られなかった。出口を求めて20分もさまよった拳句ポリスに出口まで送ってもらった。ここで出会った日本の青年H君は、出口が見えていても出られず、自力で出るのに2時間掛かったという。気が長いのか、我慢強いのか、H君の気持ちがわからない。

### フェズ(日本語を話すガイド)

1月26日(日)。カサブランカから4時間30分列車でフェズへ97D(1,167円)。バスの方が早く、運賃も安いうえ、本数も多いのだが敢えて列車に乗る。

ここは、世界一複雑な迷路フェズ・エル・バリと言う巨大なメディナを持つ街だ。細い坂道を口バや牛が荷物を積んで行き交う姿が、この生活そのものなのだが、私達には遥かなる異国情緒として心が満たされる風景だ。



ここの迷路は「旅人が1人で歩く事は時間の浪費」と言われているので、ガイドブック掲載の公認日本語ガイドのラズラックさんをお願いした。

私の他に日本人はHさん父娘2人の計3人。日本人だけかと思ったら、オーストラリア人4名、ドイツ人2名、フランス人2名と言う大所帯であった。ラズラックさんは、8カ国語を話すと言っていたが、今日は4カ国語の通訳で、英、独、仏、日本語の順にガイドをする。「通訳が最後になると、観光時間も少なくなるので、日本人は3人いるのだから、人数順で2番目をお願いしたい」と言うと、彼は、「その通りだと思う。しかし、自分は8カ国語の中で日本語が一番苦手なので、無意識の内に後回しにしていた」と謝り、人数に限らず順繰りにしましょうと順序を改めてくれた。仰る通り彼の日本語はあまり上手くなかった。こんなたどたどしい人に質問等してはいけない気がして、貝になった。

因みに、彼の1日のガイド料は、1人150D（1,800円）でモロッコの物価からすれば大変な高額である。今日のお客は11人で19,800円ウン...

昼食の時も王侯貴族の館を思わせるレストランに案内され、150D（1,800円）のモロッコ料理が振舞われた。彼は、各国からの客人達にモロッコの高級なところを見せたかったのだと思うが、清貧の私達は、皆で顔を見合わせ「お味は合格点だが、モロッコの昼飯にしてはチト高い！」と暗黙のうちに頷きあった。

フェズのホテル・オリンピック246D（2,959円）ダブルルーム。

## メディナの中の庶民生活を垣間見た

迷路のように見えたメディナの中も、意外と単独で歩けると思った。翌日Hさんのお嬢さんのAちゃん（23歳）と連れ立って再挑戦してみた。メディナに入って5分もしないうちに自称ガイド達が数人現れる。このガイド達の中から、私達は10歳の「ヨゼフ少年」を選んだ。

選ばれなかった大人たちは、「ヨゼフは英語も良くできない子供なのになぜ？」と不満気だが、私達は、アラブ人と白人との混血で、ノーブルな顔立ちと、子供とは思えない気配りをするこの少年にコロッと参って、この大層な名前をもつ子供を1日中連れ歩いた。

「ヨゼフお茶！と言えばアラブ流喫茶へ、ヨゼフ！次はタンネリ（皮をなめす臭い匂いのするところ）」と言えば、ニッコリ頷き、すぐに臭い消しの香草を取ってきて案内してくれる。この子が、このメディナで、どんな生活をしているのか知りたくなり、「君の家を見たい」と言うと、「僕の家はここから遠いので、お姉さんの家に案内する」と言う。ここの庶民の暮らしが見たい私達はウキウキした。

しかし、彼が案内してくれたお姉さんの家には、ヨゼフとは似ても似つかない「黒人」のお姉さんがいた。うろたえる私達に、そのお姉さんは、「そうなの。驚いた？私だけこんな風に黒いのよ。でも、ヨゼフと同じ両親なの！」と綺麗な英語で話してくれた。

「数代前の先祖が、黒人と結婚した名残」なのだと言いが、メンデルの法則で、そんなこともあるのかしら？今もって狐に化かされた思いだ。遠い異国の物語やのう。

ヨゼフのお姉さんは、メディナの3階に住み、日本製電化製品と良質の家具類に囲まれて決して悪くない暮らし振りであった

突然の珍客にも、優雅な物腰で「良く来てくださいました」と香草入りのベルベル・ウイスキー（お酒ではなく、お茶）を振舞ってくださった。平和な中流家庭の印象だった。メディナの城壁にしっかりガードされているせいか、家の中は開放的で、玄関も開けっ放しの無防備さであった。

この家の隣に住む14歳の少女が「私の家も見て」との強い誘いで、もう一軒見せてもらった。ここは、少し清貧の感じがする。家も狭くゴチャゴチャ、電化製品も、安いと言われている韓国製と自国モロッコ製であった。

この子の家には、母親のほか17歳、19歳、23歳の3人のお兄さん達まで家には驚いた。全員失業者らしい。「働いているのはお父さん1人」と母親は困った顔をしたが、私達には、「ゆっくりするように」と笑顔でお茶を入れてくれる気持の余裕があった。洗濯場や、屋上まで見せてくれた彼らの人懐こさ、親切さに心が和む。  
(以下次号)

## お役立ち情報シリーズ

前回の夏季号に続くお役立ち情報シリーズの第2弾です。今回は**宿泊施設情報編2**としてチェンマイ、バギオ、セブ、ダバオ、イロイロ、ハワイにLS実践経験豊富な会員からの情報提供です。

### チェンマイにおける住居探しについて

東北支部 No.54 山口 洋二

南の会の皆さんお元気ですか。ここチェンマイは、日本の蒸し暑い夏に比し、非常に過ごしやすい涼しい雨季を迎えております。一度この時期の来チェをお勧めいたします。

ところで今回は、チェンマイにおける住居の探し方に付いて書いてみたいと思います。とはいっても、いろいろな条件が複雑に噛み合っ、一概に書くことが出来ませんので、長期のロングステイをする場合(1年以上)で、市内のコンドミニウムにて居住するという場合に限定して書いてみたいと思います。

ただお断りしておきますがこれが金科玉条の唯一の方法ではありませんので、あくまで参考程度にお読みください。

さてどなたでもチェンマイに長期滞在しようと思った途端、最初に突き当たりますのが気に入る安い住居をどのようにして探すかということです。短期の滞在であれば少々気に入らなくても少し我慢すれば時が過ぎ出て行けますが、長期となりますととても我慢できるものではありません。気に入った安くて良い住居を探す重要性が非常に高いのです。

それでは失敗しないで気に入る安くて良い住居を探すにはどうすれば良いのでしょうか。そのためにはまずチェンマイにてどのようなライフ生活をしようとするのかという事を、しっかり確立しておくことが非常に大事になってきます。

自炊を主とするのか(キッチンが必要)、あるいは外食を主とするのか(キッチンはあまり必要でない)、生活は朝方なのか(騒音があると夜眠れない)、夜型なのか(騒音があっても余り気にならない)ということも重要な要素となります。また交通の利便性を優先するのか(どうしてもうるさい場所が多い)、住居環境を重視するのか(どうしても交通事情は不便)といった要素等も重要な要素となります。

と申しますのもこれらの要素を無視して住居を決めましても、長く生活しておりますと段々とこれらの要素が整っていないことが不満で苦痛となってまいります。

よって短期と異なり長期の滞在の場合は、物件を決める際は、まずチェンマイでの生活様式をどのようにするかを決めておくことが必要となります。当然生活しておりますと途中変更等があると思いますが、少なくとも当初は決めておく必要があります。

以上を前提に、それでは失敗しないための住居の一般的な探し方とはどのようにすればよいのか、以下私なりの考えを書いてみたいと思います。

1. 物件の探し方ではありますが、他人あるいは業者任せではなく、**努めて多くの物件を自ら見る**ことを強くお勧めします。(比較できるようになるために極めて重要) 又その際タイの特性で、コンドの各部屋の持ち主がそれぞれ異なるため1つか2つの部屋を見たからといってそのコンドの部屋はこんな程度の物であると過早に判断をされないようにして下さい。意外と良い物件は隠れており、なかなか一度や二度では見つからないものです。全般的には、コンドの端や角部屋は明るく且つ広く日本人が気に入る物件が多く見られるようです。なお部屋の持ち主から直接借りられれば、かなり安く借りられることが多いようです。(月3,000バーツは安い)

2. 紹介者も無く飛び入りにてコンドの空き部屋を見せて欲しいと行った場合、通常は余り良い物件は当初からは見せてくれません。むしろどちらかといえば余り良くない物件を見せる場合が多いようです。何故ならば借り手の無い物件を借りてもらえるに越したことに無いのですから。

それではどうすれば良いのか。それはそのコンドに住んでいる住民と知り合ってその人を介して空き部屋を見せてもらうか、あるいは**何度も同じコンドを訪れ管理人と親しくなる**ことです。そうすれば信じられないような良い物件を見せてくれます。又物件が無い場合は良い物件の空きが出る時期を教えてくださいます。要するに根気が必要なのです。

3. チェンマイに来てすぐ長期の部屋を探すのではなく、**当初は短期用の部屋を探し、一旦腰をすえてから長期用の部屋探しをした**ような良いものを見つけ易いと思います。

日本人はせっかちですから、どうしても当初から早く決めたいが、決まらなるとなんとなく不安なため、長期の部屋を当初から探す傾向がありますが、このような物件は当初気に入っていても現地の事情が分かってくるに従い、他と比較し後悔されることが多い様です。

かくいう私自身がそうでした。幸いにしてよい部屋に当たりましたが、今考えると随分冒険したなあと思います。

4. 色々なコンドの住民からその各コンドの環境等自分の知りたい事について事前に情報を入れておくことです。そしてそれを分析して自分の希望にあったいくつかのコンドに**狙いを定めて、何度もそのコンドに足を運ぶ**ことです。

出来ればお菓子等を持って機嫌を取っておれば、タイ人も人間ですから親しくなれば良い部屋の情報を教えてくださいます。

5. 気に入った物件があっても、まず**当初から1年とかの長期契約をしない**。ただし管理人(家主)は、当初から長期で貸したがりですか

ら虚々実実の駆け引きが必要となります。

なぜならば往々にして、住み始めてからいろいろと住居環境の不都合事項に気が付く場合が多いからです。

例えば近所のカラオケ店の音が毎晩のように騒音がうるさく、12時過ぎまでやめないとか、雨季になると窓から雨漏りが激しくするとか、隣人が夜の仕事のため深夜帰宅して、しばらくうるさい等々当初予想もしなかった事柄が多々ある場合があります、結局デポジットを放棄して部屋を出るしか解決手段がなくなるからです。

よって当初は、様子見にて1ないし2ヶ月程度、短期にて借りることをお勧めします。当然長期にて借りる場合より家賃は大分高くなりますが、失敗した場合を考えれば結果的には損をしないと思います。

6. 日本人の特性として、綺麗な部屋あるいは家財道具等きちんとそろっている部屋等々なかなかこだわりが強く、これらがきちんとそろっている部屋を探しがちですが、この要求を満たした部屋はどうしても日本人価格となって相場よりかなり高い物となります。(月3,000から5,000バーツは高い)

よって賢い借り方は、部屋は少々汚くても、又家財道具等は少々無くてもむしろ部屋の配置・広さ・明るさ等自分の条件にあったものであれば後は自分で直されたり、買った方が極めて安くかつ良い物件に入居できます。これらの補修等に使用するお金は微々たる物で1年せず元がとれます。

以上色々と思いつくまま注意事項を書きました。この中のいくつかは、短期の方にも活用できることもあります。これからチェンマイにて部屋を探される方は参考にさせていただければ幸いです。要するに急がないでゆっくりと探す事です。

なお当初から失敗しないで、気に入ったよい部屋を探されるのは至難の業です。ここチェンマイに居住されておられる会員のほとんどの方は、1度や2度の引越しを経験されております。

皆様も安心して住居探しに挑まれ体験して下さい。しかしわざわざ失敗する必要もありませんので、まず私も南国暮らしの会の現地の仲間から色々と情報を収集され、より賢く住居を探され、快適なチェンマイロングステアーを送って下さい。

## バギオの宿泊施設

バギオ支部 No.227 齋木 一

LSをする場合として考えると宿泊施設は以下の様に大別されます。

- 1、ホテル
- 2、アパートメントホテル
- 3、トランシェント・ハウス（短期貸別荘）
- 4、一戸建て賃貸住宅
- 5、賃貸マンション
- 6、賃貸タウンハウス
- 7、一般アパート
- 8、ホームステイ

その中で、一般アパートはフィリピン人向けで、日本人のLSにはお薦めできず、ホームステイは具体的な案件に乏しいので説明は割愛します。

それでは、順を追って説明します。

### 1、ホテル

バギオには所謂ファイブスターホテルはありません。条件となっている20m以上の水泳が可能なプールとか何ヶ所かのレストランと言う設備を備えた大型ホテルはありません。雨期のホテルとしての閑散期の経営が大型ホテルは難しい事もあります。高級ホテルと呼ばれるホテルは3ヶ所です。「バギオカントリークラブ」「キャンブジョンハイマノール」それに最近出来た「エリザベス」です。エリザベスを除く2ヶ所はゴルフコースもあり、宿泊者は当然プレイ可能です。1泊の料金は1万円程度からですが、雨期には大幅に値引きされます。中級ホテルは1泊3～4千円からあります。「ゴールデン・パイン」「プリン・プラザ」「パレス」「パインビュー」等がロケーション的にはお薦めです。

いずれも雨期の値引きは20パーセントでしょう。1ヶ月単位の料金はありません。短期滞在に向きます。1泊2千円程度のバジェットホテルもありますが、お薦めは出来ません。

### 2、アパートメント・ホテル

最近会員の方々がよく利用される様になりました。1～2室の寝室でキッチンの設備もあります。1泊、1週間、1ヶ月の料金設定がなされ1ヶ月で4～6万円程度です。「チューリップ」「ホリデイ・ビラ・コート」等があります。

### 3、トランシェントハウス（短期貸別荘）

1戸建て住宅やマンションを利用し、1泊から1週間程度の短期間限定で利用出来ますが、最近1ヶ月程度の利用可能のところも出て来ました。当然キッチン付で、冷蔵庫、TV、テーブル、応接セット、それに最低限度の食器類も用意されています。「ストロベリーハウス」「ダイヤモンド・バケーション」等は利用実績もあります。1ヶ月4～6万円程度です。

### 4、一戸建て賃貸住宅

一般用住宅を賃貸に転用しているものが多く、最低1年以上の契約になります。入居時に3～4ヶ月程度の敷金・礼金も必要です。不動産会社の手数料も別途掛ります。契約途中での解約は期間満了迄の家賃支払いが義務付けられています。定住型のLS用でしょう。家賃は日本人の条件を満たすものとして選別すると1ヶ月4万円から上は20万円以上の物件もあります。什器・備品はある場合と無い場合がありますから注意が必要です。

### 5、賃貸マンション

バギオは建物の高さ制限や、敷地内の大木伐採禁止令があって、大型のマンションはそれ程多くはありません。分譲マンションを購入したオーナーが賃貸する機会が多いと聞いています。矢張り最低1年以上の契約になり、条件、賃貸料金は一戸建ての場合と同じです。物件はあまり多くはありません。

## 6、賃貸タウンハウス

最近多く見かける様になりましたが、バギオに英語研修目的で大挙押しかけている韓国人に占領されています。条件等の情報も持ち合わせではありませんが、不動産会社に依頼すれば賃貸は可能でしょう。町の中心からやや外れた場所が多いので車が無いと不便です。

何れにしても、まずはバギオを良く知る事が大切で、年間契約の物件はバギオに何回か足を運んで知識を得てからがいいでしょう。バギオ支部としては、この様な情報提供はしますが、物件の紹介、案内はしません。

現地不動産会社をその都度ご紹介しています。近々支部として提携契約をすべく準備中です。

### お役立ち情報 フィリピン セブより

セブ支部 No.636 鶴岡 照郎

#### 来セブ 時期 について

今年2006年12月13日に第12回東南アジアサミットがセブで開かれます、このための関係者用ホテル客室が3000室必要と言われて、今セブではホテルの新築と改修が行われております。しかしどこまで間に合うものかと、

不安の気持ちで一杯です。この時期12月8日頃から16日頃まではセブ市内でのホテルはペンションでさえ今でも予約が出来ない状態だと言われています。また、警備体制もより厳しくなると思われます。今月でも大きなモールのガードマンの数が増えて、チェックが女性の小さなバッグの中をいちいち行っています。

また、来年1月13、14、15日はセブ最大のイベント、シノログ祭りが行われこの時期も、ホテル、ペンション等がフルブッキングとなり部屋を確保するのが難しくなります。特にフェンテ周りでは道路の封鎖でタクシー等は行かず炎天下でもすべて歩いて行動しなければならない状態です。でもシノログを見物するにはフェンテ近くのホテルに泊まるのが最高です。シノログ祭りは日本の札幌のソーランよさこいイベントと同じかそれ以上の規模です。

ロングステイ候補地の探索のためにセブに来られる方はこの時期をお避けになった方が賢明です。

次にセブの主なホテル9月現在の価格を調べましたのでお知らせします。ここにあげた以外にも小さいホテルが市内にはいっぱいあります、もちろんバックパッカー向きの安い600 - 900ペソのホテルもありますが、私が行ったこ

ホテル名		電話番号	一泊一部屋 値段	部屋のタイプ	その他
ディプロマット	Diplomat	2530099	1200	twin bed	食事なし
ホリデイプラザ	Holidayplaza	2547643	1900		朝食2人付
モンテベロ	Montebello	2313681	2100	standard	朝食2人付
セブグランド	Cebugrand	2546331	2100	deluxe	朝食2人付
ゴールデンピーク	Goldenpeak	2338111	2200		朝食2人付
ミッドタウン	Midtown	2539711	2500		朝食2人付
ベラビスタ	BellaVista	3407821	2500	deluxe	朝食2人付
ウォーターフロント	Waterfront	2326888	4539	deluxe	朝食2人付
マルコポーロ	Marcopolo	2531111	4800	deluxe	朝食2人付
マリオット	Mariott	2326100	5300		朝食2人付
リッチモンド	Richmond	2320361	1900		朝食2人付

とがないので除外しました。リッチモンドホテルで最近9月5日に会員の方が10月中旬から来セブ一ヶ月滞在予定の予約をしたところ27000ペソで一ヶ月ということでした、デポジットが10000ペソを予約時に入れました。これには食事は入っていません。でもアヤラまで歩いて5-8分の所にあり、買い物、食事にはとても便利です。しかも、大きな病院パーペチュアル、スーコールホスピタルがホテルのすぐ裏にあり万が一の時にも安心です。ペソレートは9月7日現在2.3円が1ペソで10000円が4300ペソ前後です。

### ダバオのホテル情報

関東支部 No.341 平野 雅一

宿泊費は、\*高い 3,500ペソ~、  
\*安い900~1,500ペソ、\*中間 で表示

#### 街中心部で利便性を重視するならば

「マルコ ポーロ ホテル」 \*高い

<http://davao.marcopolohotels.com/>

ダバオ空港から無料送迎サービス有(車で約20分)。ダバオで名実ともNO.1のホテルです。ダバオ市街中心部に位置し利便性抜群。目の前がブラックマーケットと民芸品店で有名な「アルデピンコ」。



大型ショッピングセンターまでタクシーで3分。徒歩圏内にレストラン多数。日本領事館まで徒歩10分。また、ダバオで唯一外人価格とフィリピン人価格があるホテルです。

「アポ ビュー ホテル」 \*中間

<http://www.apoview.com/>

マルコポーロホテルから車で更に3分位街中心部に行った所にある。マルコポーロホテルよりも安く、利便性もよい。ショッピングやレストラン等殆ど徒歩で行くことができる。空港間無料送迎車有り。

#### 街中心部の利便性があり安いホテルがいいなら

「ピラ マルガリータ」 \*安い

(082) 221-5647

空港から15分。街中心部までタクシーで5分。大型ショッピングセンターまでタクシーで3分。2軒隣り(写真左方向)に24時間営業のコンビニ有り。安いホテルの中では、利便性、清潔感、スタッフのサービス等で断トツNo.1です。



#### キッチン付ホテルがいいならば

「Crown Regency」 \*中間

<http://www.crownregency.com/davao/davao.php>

上記マルガリータホテルの近くにあります。レストラン・フィットネスなどホテル機能とルームサービスを有しています。長期滞在希望者に適したホテルです。



#### 南国の海さえあればいいならば・・・

「パール ファーム リゾート」 \*高い

<http://www.pearlfarmresort.com/>



ダバオ市内からホテル専用送迎船に乗って、約40分の所にあるリゾートホテル。水上コテージも有。プール・レストランその他一通りの設備が揃っている。クルーザーも有る。このホテルが所有している小島(ホテルから専用船で3分)にも宿泊コテージがある。自然派志向の人には最高だが、ホテルの回りは海とジャングル?しかないので、ホテルの中だけ過ごすことになります。

街中心部にも比較的近くて、リゾート気分も味わえるホテルがいいというならば

「ウォーターフロントインシュラーホテル」  
\* 中間高い

<http://www.waterfronthotels.net/davao/davaohtml.htm>



ダバオ空港から無料送迎サービス車で12分。街中心部までホテルからタクシーで約15分。ホテル敷地は海に面し、庭が広く南国気分を味わえる。但し、築年数が立っているので泊まる部屋のタイプはプールビューを指定した方がよい。(スタンダードルームは避けるべき)。ホテル棧橋先端にある夜のみオープンする「ピラタバー」は私のお気に入り。潮風と波の音と陽気な人達の笑い声しか聞こえてきません。

以下がいつもお世話になっている代理店です。ホテルへ直接予約するよりも安いと思います。私の名前(平野)を出していただいても構いませんが、その場合、値引き交渉は絶対にしないで下さい。値引き交渉する場合は直接ホテルへ！  
EVASCO Travel & Tours (ダバオ市内)  
TEL. (82)227-8561  
Email: [evascotravel@pldtdsl.net](mailto:evascotravel@pldtdsl.net)  
社長: Tan Evasco

### フィリピン・イロイロのホテル情報

関東支部 No.740 渡辺 亜雄

南国メーリングリストへの2通の投稿記事からまとめました(編集)

イロイロのホテルも高いホテルから安いホテル色々ありますが、上級(Sarabia Manoa)で2,750ペソ(5,500円)、中級(Amigo Terrace)1,750ペソ(3,500円)、安いホテルで800ペソ(1,600円)です。中級のAmigo Terraceでもダ

ブルベッドとシングルベッドが付いています。

会員の皆様は中級(あえて星数で言えば3星?)で十分かと思います。このホテルは"late check in"サービスがあり、午後6時以降のチェックインで午前10時にチェックアウトすれば1,065ペソ(2,130円)でOKです。(6月15日投稿)

南の会の皆様こんにちは。740渡辺亜雄です。今回、イロイロ情報として「フィリピン七不思議」を予定していましたが、ホテルの価格のお問い合わせが多い様ですので、イロイロでは名の通ったホテル4軒に出向いて調べてきました。ただ、旅行代理店として行ったわけではなく、個人でのヒヤリングであったため本音が聞けなかった部分もあったようにも思いました。つまり、実際の価格は下に示すより安くなるであろうということです。

注) 単位=ペソ、Tariff=定価、左側:ハイシーズン、右側:ローシーズン。上から"Tariff"、1泊、1週間、1ヶ月、3ヶ月(1日当り)の数は私の観測によるもの。税金は12%。

1. Sarabia Manor 4 (Executive Room)  
3,950 -  
3,950 2,655 (雨季の7~11月は2,118)  
3,950 2,436

3,950 1,770 (1ヶ月以上は同一)

特記事項:ハイシーズンは"Dinagyang"(1月末に行われる祭り)の時期(3日間)のみ。残りの362日はローシーズン。税込み・朝食つき。

2. Days Hotel 4 (De Luxe Room)

2,950 -  
2,950 2,360  
2,950 2,360  
2,950 2,065

3ヶ月以上は交渉による。

特記事項:ハイシーズンは1,2,5,6,10,12月、ローシーズンは3,4,7,8,9,11月。ローシーズンの金、土、日の泊りは1,475Pesos。(ただし朝食なし) 税込み・朝食つき

3 . Hotel Del Rio 3 (De Luxe Room)  
 3,200 -  
 3,264 2,500  
 3,104 2,300  
 2,944 2,100 (1ヶ月以上は同一)  
 特記事項：ハイシーズンは9~5月、ローシーズンは6~8月。税別・朝食つき。

4 . Amigo Terrace Hotel 3  
 (Standard Single & Double Room)  
 2,200 -  
 2,200 1,500  
 999 999 (1週間以上は同一)  
 特記事項：ハイシーズンは"Dinagyang" (1月末に行われる祭り)の時期(3~4日間)のみ。税別・朝食つき。

なお、具体的なホテル名、時期、宿泊日数、ご予算などをお知らせいただければ交渉してみます。お問い合わせください。(8月5日投稿)

### ハワイコンドミニアム情報

関東支部 No.712 高田 勝弘

ハワイはご存知の通り、風も空気もさわやかで、海もあり雨も少なく気候の良い所です。

しかしながら都会的なリゾート地であり、居住費が高いのがロングステイのやりにくいリゾート地となっているでしょう。更に今はまだ米国本土よりの投資が盛んで日本のバブル期と同じような状態です。ホテルが一番安くても一泊US\$100、普通でUS\$220はします。そこでロングステイではコンドミニアム、一戸建て、B&B、アパートがねらい目となりますが、コンドミニアム以外はホノルルの中心、海に近い所は殆んどありません。したがって、この度はコンドミニアムの情報を若干お知らせします。

ワイキキ、アラモアナにある一般的なコンドミニアムは以下の通りです。

ワイキキパークハイツ、ワイキキ・バニアン、サンセット、ダイヤモンドヘッドビスタ、パシフィック・モナーク、イリカイマリーナ、ワイキキスカイタワー、フェアウェイピラ、アイランドコロニー、マリーンサーフ、

ディスカバリーベイ、ロイヤルクヒオ、パゴダテラス、カピオラニテラス、アウトリガー、ルアナワイキキ、等ざっと上げてはかなり在ります。

値段はマンスリーベースでワイキキ・バニアン US\$2,000(オフ)~US\$3,000(ハイ)、サンセット US\$3,000程度が普通です。

本年、670番 今野力男氏が実際体験した例ではコンドミニアムは基本的に、個人か法人が所有しそれを管理会社に貸出し管理を依頼していることが多く、たとえば、ワイキキ・バニアンは5社の管理会社が運営しており一番大きな管理会社はアストンです。

管理会社によって値段もやり方も違いますので、よく検討する必要があると思います。今野力男氏は今年の5月、6月にロングステイをされています。以下同氏の体験記です。

ハイ、オフシーズンか、部屋からの景観(海側、山側)等がハワイでは大きく影響する為に同物件でもレンタル料金が異なる。

アイランドコロニーは比較的部屋数の多いホテルコンドミニアムタイプでセキュリティも充分、ホテル部門には日本語を話す人も居り同胞の利用あり。所在はアラワイ通りに位置し、DFS、ワイキキのメイン道路、カラカウア通りにも歩いて数分で買い物、観光にも便利。アラワイ運河沿いの散歩や近くに食材を扱うスーパーのフードパントリー等がありシーズンステイヤーが住む場所としては利便性を考慮するとお勧め物件と思う。日本の某中堅ゼネコンが(ワイキキバニアンも)建築。市内No1の高層ホテルコンドの為、30階以上は海側の部屋からはダイヤモンドヘッドも勿論海も良く見え、一部山側もラナイ(ベランダ?)から見られる。

南の会、会員の滞在体験によると今回、バニアン予約依頼するが既に満杯で上記コロニーをインターネットで予約する。海側の40Fを1ヶ月(5月31日~6月30日)スタジオタイプ(イメージはホテルの部屋+キッチン付の1ルーム)基本室料1,500ドル(階層、眺望、山側等の条件により1,200ドルもあり、部屋

所有者個々で賃料が違う事有り)。諸経費込みの総支払額は1,860ドル(税金、固定電話、水道、光熱費、退去時掃除代等)でした。

この部屋の景観は抜群でラナイが広く周辺を気にせず此处で食事、昼寝等が可能です。部屋の仕様が古い(メンテナンスが悪い リホーム済の部屋もありオーナー次第で部屋の快適度に差がある)、キッチンが狭く使い勝手が悪い事も有り、総合評価は100点満点で80点程度でした。

今回、感じた事はハワイでもシーズンオフは希望のコンドが確保出来ない場合は、他の国でのコンド探し同様現地に行き自分自身で諸条件を確認して決める(数日間ホテル予約して)のがベターと思います。探す手懸りは現地の日本語新聞や不動産屋、良さそうなコンドを訪問し掲示板を見る。日、週、月貸等物件多数ありました。

因みにコロニーのペントハウス(44Fの1ベッドルーム、フルキッチン、眺望は270度)は基本2,500ドル(オフ)~3,500ドル(ハイシーズン)

アイランドコロニーと同オーナーのイリカイホテルコンド、スタジオタイプ(フルキッチン)、コロニーより広い、海側部屋は基本室料2,500ドル(オフ)~3,500ドル(ハイシーズン)との事でした。

参考: コンドミニウム予約先

- ・コムブリッジ Tel 03-5568-4661
- ・パシフィックリゾート Tel 0120-080102
- ・HITEX INTERNATIONAL, INC  
Tel 808-924-7000 (日本語OK)

### タイ チェンマイで年金ビザ取得情報

関東支部 No.6 石川 綏夫  
関西支部 No.1008 田中 美子

石川様(No.6)よりチェンマイでの年金ビザ取得について菊地様(No.240)へご説明をする様にとお話がありお便りいたしました。何分ビザはややこしい事で今回私どもも色々と苦労を致しましたが、お陰さまでチェンマイにて年金

ビザは取れることが出来ました。

まず結論から言いますと年金ビザは取れます。取る為の資格は年間240万円以上年金額がある事。タイ国に入国する際には観光ビザを持ち申請するときには3週間以上日数が残っている事。

必要書類は年金証書原本、振込み通知書、タイ国内の銀行の通帳と残高証明(5日以内)、金額は10万バーツ位あればいいそうです。診断書(1週間以内)チェンマイの私立もしくは県立病院の診断書ですが75バーツで取れてとても簡単です。奥様が配偶者でとられる場合は3ヶ月以内の戸籍謄本が必要です。

以上これをチェンマイの日本大使館にて英文に書き直す事(800バーツ位)。

私個人の考えですが、私たちのように日本に帰る必要が無くこちらで取ろうと思われる方を除いては、日本のタイ大使館(東京)で取られるのがお勧めです。チェンマイではノービザでは年金ビザの配偶者は取れません。80万バーツ必要になります。観光ビザを持っていらして条件が揃えばこちらで取られても必要経費が安くつくのでいいかもしれませんが。

私のお勧め取得方法はチェンマイに二、三週間遊びに来られて、帰りにチェンマイ大学病院で診断書を作られて銀行の手続きもされて日本に帰って三ヶ月以内に大使館にて年金ビザの申請をされるのが、ご主人と奥様の配偶者ビザが簡単に取れる方法だと思います。

この度クーデターがあり今まで簡単に陸路で一ヶ月の延長可能だったのが、今は出来ません。空路でどこかに行かなければ出来なくなっています。(いまだけかも!?)

説明が下手で申し訳ありません。ご理解頂けましたでしょうか?何か解らない様でしたらおっしゃってくださいね。では失礼致します。

田中 美子(No.1008)

年金ビザについてお知らせします。必要書類はタイ大使館のホームページをあけると年金の種類ごとに詳しく書いてあります。

我が家は年金ビザでしたので用意したものは

- 1 パスポート原本
- 2 ビザ申請書（ホームページからプリント出来ず）
- 3 写真2枚
- 4 航空券もしくは予約確認書
- 5 年金証書原本とコピー1部
- 6 英文経歴書〔ホームページからプリント〕
- 7 英文身元保証書〔同上〕
- 8 身元保証者のパスポートコピー
- 9 戸籍謄本
- 10 国公立病院発行英文健康診断書  
（私達はチェンマイ大学病院で受けました。）

70パーツ)

以上の書類を準備して行きました。1年のビザですが、滞在期間は90日間で、90日間を超えて滞在したい場合はイミグレに問い合わせ下さいとの事です。宮澤さんから聞いた話では、90日で1度海外に出て、また入ると90日滞在可能と聞いています。私達のように、行ったり来たりする人には、年金ビザが簡単に取れてベストかな～なんて思いました。申請料はマルチで15000円でした。私は配偶者ビザを取り、同じくマルチで15000円でした。

石川 綏夫 (No.6)

## 支部便り

### チェンマイ支部便り

#### 「チェンマイだより」休刊のお知らせ

このメルマガ・第1号を出したのは去る2004年6月、あれから早や2年余り経ちましたが、この度諸般の事情により10月号をもって休刊とさせて頂くことになりました。

「諸般の事情」とは；

9月の軍部クーデターのこと； 軍事政権 = 非民主国家、この国のイメージダウンは明らか。自分がかつて当地こそ「桃源郷」と思い、物にもそう書いたりしたのですが、今では失望の極み・・・

家庭内ビザの問題； 去る7月に身内（88歳）が脳梗塞で倒れ入院 ために今後 帰国が頻繁になりそう・・・

という事情をご賢察のうえ、悪しからずご了承下さい。今後は一会員として ML にお邪魔いたしたく よろしくお願い致します。

(No.558・伊沢 豊)

### 北海道支部便り

平成18年度第2回『南の会北海道支部情報交換会(つどい)』の開催予定です。

日時：10月14日(土) 13:00～16:00

場所：かでの2・7 札幌市中央区北2条西7丁目  
道民活動センタービル

(<http://www.kaderu27.or.jp/>)

有料駐車場がありますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

議事：

- |                      |       |
|----------------------|-------|
| 1 支部長挨拶              | 工藤支部長 |
| 2 情報提供 「沖縄ステイ」       | 小澤さん  |
| 3 情報提供 「メキシコ・モンゴル旅行」 | 久保さん  |
| 4 情報提供 「タイステイ」       | 富樫さん  |
| 5 その他・皆様からのご意見等      |       |

会費：300円/人

会終了後、懇親会実施の予定です。

今年からミニサロン会を行っています。おしゃべりもよし、同好の士が集ってのゴルフもよしということで、女性会員のみのミニサロン会が実施され大いにおしゃべりを楽しんだようです。

(7月27日、4名参加)

また同好の士による「ふれあいゴルフ」が下記要項で開催される予定です。(9名参加予定)

日時：10月7日(土曜日)

場所：シャムロックカントリー倶楽部

(千歳市柏台1390-3)

スタート：AM11:30

## 九州支部便り

### (7月度例会)

日時；7月17日(土) 13:30～16:30

場所；福岡市NPO交流センター

参加会員；23名

内容；支部長会及び総会の報告

イタリア旅行、南アフリカ旅行の報告

海外での注意事項あれこれ

南の会ホームページ及びnangokuとnangoku kyusyuのグループページの活用を奨励した。

(42会員中33名がML登録済)

今回は、深松副支部長によるプレゼンテーション、ソフトウェアPowerPointを使っただけで極めて解りやすく見栄えも良かった。今後これもこれを定着したい。

17:00から場所をいつもの親不孝通りの「振子」に移し懇親会を開催した。

### 支部企画「チェンマイLS下見ツアー」の準備

平成18年度支部行事の一環として、南の国の中でも人気度の高い「チェンマイ」のLS下見ツアーを計画しました。

今回は15名という多勢での個人ツアーということで、催行までの支部の取り組みを報告します。

#### 1. ツアー概要

訪問先 チェンマイ

旅行日 平成18年9月30日～10月10日  
(9泊11日)

参加人数 15名(7組と一人)

#### 2. チェンマイを選んだ理由

支部会員ご夫婦が今年からチェンマイで長期LSを始められ、準備段階からの詳細な模様を30回にわたり支部メールにお送りいただいた。その感動が一番の理由。

昨年支部主催セミナーでチェンマイからゲスト2名来熊頂き、魅力をたっぷり発表してもらった。

福岡のタイ国政府観光庁の好意的な協力体

制。(昨年のセミナー時の後援、支部情報交換会開催時等での資料提供)

#### 3. 旅行日の決定

単純に渡航費用が安い時期であることと雨季を避けた。チェンマイ支部の毎月サロンの日程とずれてしまったことが残念。

#### 4. 参加者の意識統一

参加者がすべてメール会員であったため連絡は支部MLを活用し、参加以外の会員へも準備状況を情報提供するとともに、経験ある会員からアドバイスを受けやすくした。

LS中の会員や滞在経験のある会員からたくさんの方の現地発行情報誌や関連本をいただいたので一週間程度ずつまわし読みして学習した。ツアーの決定(6月)から催行(9月末)まで時間的に余裕があったので、事前の準備がゆとりもってできた。

滞在中の時間の過ごし方は個人責任、希望が合えば一緒に行動の原則を確認。

チェンマイだよりで紹介されているKKトラベルの担当の方と詳細な打ち合わせができ、滞在中の国内ツアーについて、各参加者がそれぞれ希望するツアーの事前手配ができた。(こちらからの要望に沿って提供いただいたツアー内容、費用について、時間をかけて選択できた。滞在中の時間の有効活用に役立った(?) )

なんといっても素人集団の手作りプラン。日程に制限があるからこそ欲張って充実した下見ツアーにしたかった。

この原稿を書いている日はツアーまでにまだ2週間ほど余裕があります。これからが本格的に詰めの段階に入るところです。初めての訪問地ですが、もう3ヶ月前から住んでいるような親しみを感じています。楽しみです。

本年度支部行事として、11月に第2回目の蕎麦打ち体験を予定しています。

(文責 九州支部総務担当 朝永清寿)

## バギオ支部便り

「ボランティア」のお誘い、会員No.227  
バギオ支部 斎木です。この「会報秋季号」が  
会員の皆様のお手元に届く頃には、バギオもそ  
ろそろ雨季が明けて、夜空の星と、町のクリス  
マスイルミネーションが華やかさを競う時期が  
到来している頃でしょう。

バギオは海拔1500m、南国にありながら  
1年中熱帯の暑さには無縁の避暑地です。12  
月から2月月初にかけては、朝晩の冷え込みで、  
寒さを感じる日すらあります。

そのバギオに滞在し「人の心の温かさ」を実  
感出来るのが「バギオでのボランティア」です。  
フィリピン特有の喧騒から離れた山上の別天地  
バギオでは、ボランティアがよく似合います。

100年前のその街づくりの最初から日本人  
が深く関与し、戦後、悲惨な生活を送っていた  
多くの日系人を、たった一人の日本人「シスター  
海野」が救ったバギオのボランティアは、今バ  
ギオに定住し、LSをしている数少ない日本人に  
しっかり受け継がれています。日本人だけでは  
無く、シスターに助け出され、日本からの支援  
に支えられ、かつての栄光を復活させつつある  
「日系人」達も、ボランティアにはとても積極  
的に取り組んでいます。

その日系人達は今では、7千人を超える程に  
なっていますが、彼らの大きな悩みは、戦後の  
一時期、激しかった反日感情から逃れる為に、  
日系人である事を隠して山中深く隠れ住んでい  
たので日系人でありながら、日本語を話せず、  
日本の事を良く知らない事です。

バギオの日系人のよりどころの日系人会館  
「アボン」（現地の言葉でより集う家の意味）  
では、そう言う日系人達の為に、機会ある毎に、  
日本語や日本の文化、風習を日系人に教えてい  
ます。

月2回の奨学金受給生のミーティングでは、  
必ず「日本語」や「日本の文化」の時間を取っ  
ています。毎月の日系人の例会でも「和食」の  
体験等の催しを行い、沢山の日系人を集めてい

ます。その「アボン」の悩みは、教える人がい  
ない、と言う事です。南の会の会員が、バギオ  
でのLS中に、アボンを訪れ、今迄「日本語指導」  
「日本舞踊」「茶の湯」「生け花」等を機会あ  
る毎に手伝っていて、とても好評を博していま  
す。

これからバギオを視察される会員や、バギオ  
でLSをされる会員の方々には、是非滞在中に、  
ボランティアに積極的に参加して頂きたいと念  
願しています。特に、海外でLSをしながら日本  
語教師のボランティアをしたいと考えている方  
は、是非一度バギオに来られ、アボンを訪れて  
見て下さい。沢山の生徒達や、日系人が日本語  
の指導者を期待して待ち望んでいます。

今アボンでは、現地と日本との接点になる連  
絡担当者の日本語語学力の不足に悩んでいます。  
これから学生達がスポンサーに送るクリスマス  
カードの和訳や、日本のスポンサーからの邦文  
の手紙の英訳をする人がいないアボンでは、英  
語に自信のある方は、大きな手助けになるでし  
ょう。

バギオでの滞在中のボランティアとは別に、  
日本からのお手伝いもお願いしています。今、  
東海支部の会員No.563 松井さんに日本で呼  
び掛けて頂いているのが、来年の5月5日の  
「子供の日」にバギオの中心地バーナム公園で  
沢山の「鯉のぼり」を空高く泳がせようと言う、  
バギオ日本人会企画に協力する「鯉のぼり」集  
めです。

例年2月の「バギオフラワーフェスティバル」  
のパレードには、在住の日本人や日系人、それ  
にLS中の会員も多数参加しますが、その時に着  
用する「半被」や「浴衣」も中古の不用品はと  
ても重要です。日系人達への日本語指導や日本  
文化の紹介の教材もバギオではなかなか手に入  
りません。宣伝品のボールペンや団扇等も貴重  
です。子供達が成長し、不用になったピアノカ  
やリコーダー、ハーモニカ等の楽器も当地の小  
学校の子供達や先生方には垂涎の的です。

奨学金や災害支援金の様な寄付行為では無く  
ても、バギオでは会員の皆さんの身近にある不

用品や長期在庫が立派なボランティアの材料になります。機会があれば、一度身の回りを整理され、これと思われるものがあれば、ご連絡下さい。会員の方々の積極的な支援を期待しています。

この会も、これから積極的に「国際協調」や「社会貢献」に取り組もうとされていると伺い私も意を強くしています。しかし、ボランティアに一番大切な事は、他から依頼されたり、強制されたりするのではなく、自分の意思で、自発的に、心をこめて行う事だと思います。

海外で、国内で、一人一人の会員が、それぞれにボランティアを真剣に考え、自発的に取り組んだ時、この会の「社会貢献」は本物になるのだと考えています。

齋木 一  
saikihajime@hotmail.com  
SKYPE名 saikione

## 関西支部便り

本来なら、年度当初の7月例会時に支部連絡総会を開催し、支部役員への信任を問うべきですが、支部長職決定には時間をかけたほうが良いとの判断から、総会は11月までに先送りすることとなりました。よって、7月は総会ではなく例会となりました。

### == 関西支部7月例会 ==

日時：7月8日(土) 午前10:00～12:30

場所：大阪市立青少年文化創造センター505号室

人数：18名

内容：

支部役員拡充の主旨説明 & 新役員候補者紹介

\* 18年度支部役員候補者として9名紹介

395番 松浦節子 618番 大木研一

681番 池田正明 739番 若原里美

753番 大西清 754番 松本都志重

811番 山本嘉雄 816番 有元義晶

957番 澤誠一

17年度会計報告

収入：409,332円 支出：335,813円

繰越金：53,519円

\* 前年度との比較によると例会への参加者の減少及び会場費高

17年度活動報告及び18年度活動方針

\* 6月にフィリピンセブ島へ関西支部より下見ツアー実施

\* 関西支部は、人数の割には活発な活動をしているとは言えない状態。例会等に1回以上参加された方は、51%であり、半数の会員はまったく参加しておらず、魅力に乏しい企画になっているのではないかと懸念。特に新しい会員は参加率はよいが、入会歴の長い会員の参加率は低い。会員同士の交流の場に古参会員に参加していただき、豊富な知見を披露していただき、より実りの多い支部活動となるようにしたい。

\* 関西支部の所管範囲は広く、本来なら北陸や四国・中国の会員と交流できる機会であるが、広域支部のメリットはいかされていない。時には大阪近郊ではなく、例えば四国等で例会を行う等、場所を代えてもよいのではないかと等意見有り。

下見ツアーの報告

\* フィリピンセブ島への下見ツアー報告 501番大川 & 395番松浦(詳しくは2006年夏季号 501番 大川泰永氏の報告参照)

\* 下見ツアーの参加人数も少なく、実施及び内容については、反省点も含め再考が必要。

自己紹介 & 近況報告

場所をかえて昼食会で親睦を深め、閉会



\* 関西支部長が一身上の都合で辞任され、役員を6名増員したいと考えております。関西支部の皆様には、11月の総会で新役員の信任を問い、その上で、支部長を選任し、副支部長以下の役員担当の紹介をおこなう予定です（11月案内状は通常の例会の他に信任を問う総会の案内ですので特にご注意ください）後日、新役員担当についてはご連絡いたします。

\* 10月15日（日）ミニサロン会開催  
大阪市立弁天町市民学習センター  
「ペナン暮らし三周年記念！大橋さん(12番)に何でもきいてみよう」

\* 11月5日（日）関西支部総会&11月例会  
大阪市立弁天町市民学習センター  
役員信任を問うとともに、例会（おもしろい企画を考えています）を開催～具体的な内容は後日お知らせいたします～

\* 関西支部の有志でおこなってありました「タイ語を話そう」ですが、7名の参加で（会員外1）4ヶ月ほど開催しましたが、関西支部は会員の地域が広域のため困難な部分もありましたが、楽しい会でした。残念ながら先生の諸事情で継続することができなくなりましたが、タイ人の方の生の声を聞くことができ、とてもよい経験でした。

\* 役員が増えたことにより、企画の幅も広がります。これからの関西支部にご期待下さい。（395番 松浦節子・739番 若原里美）

## 関東支部便り

先の支部長、副支部長の決定に続き新支部役員を決定いたしましたので報告いたします。新役員の紹介（敬称略、太字は各責任者）本部、企画(サロン会等全ての)：

平賀國廣、市東明義、馬場章介、小林孝  
サロン会進行、司会、補助：

菊地範夫、平野雅一、佐藤サツキ、村松幸子  
総務： **島林健二**、橋本比奈子、勝本隆文  
会計； **中林勝**、大野悦子

会場申し込み(催事)；

**伊藤寛**、菊地範夫、平澤桂子、中山恒夫、岡伸夫、矢野進太郎

名簿&集計(記録)作成：

**今野力男**、平方 穰、荒川みつ子

・その他は当日お役を決める。

割り振り担当：平賀國廣

・随時お手伝いは積極的に申し出ていただく。

・今後のサロン会は会費200円とし飲み物の提供はやめる。

・サロン会名札は自分で確保(自分で作成)

・懇親会の整理券として領収書の発行で対応  
1,700円券、2,600円券、2,900円券

・役員と言っても名ばかり、新入会の方は別ですが、サロン会出席者は出来る作業の手伝いをお願い致します。

以上、今期の計画で随時適切な、前向きな改善を試みる。

4月サロン会（4月9日、大崎労政会館）

67名の参加、ビジター4名、

ゲスト：イタリア人 レーダさん

5月サロン会（5月28日、大崎労政会館）

154名の参加（ゲスト：ブルガリア人 ベロニカさん、イラン人 レイラさん、講師4名ビジター16名含む）

6月サロン会 開催せず

7月サロン会（7月17日、大崎労政会館）

89名の参加、ビジター9名

バスサロン会（8月27日、28日）

一泊バスサロン会、上高地&黒姫高原31名の参加で大盛況でした。

9月サロン会（9月18日、大崎労政会館）

95名の参加、ビジター17名

## 今後の関東支部サロン会開催予定

（場所は何れも大崎労政会館）

10月 9日（月）確定

11月 26日（日）確定

12月 10日（日）確定

1月 14日（日）予定（場所確保は今後）

関東支部 支部長 市東明義

## メーリングリスト ミニ情報

ギマラス島沖重油流出被害の件－2（LOOBより御礼とご報告・最終）

2006年9月19日

南国暮らしの会の皆様、こんにちは。渡辺亜雄(740)です。標記に関し、義援金の受け皿になっていただき、また皆様からお預かりした貴重な義援金を有効的に活用してボランティア活動をしていただくフィリピンNGO団体"LOOB"から「南の会」への「お礼とご挨拶」をお預りしましたので以下原文のままお伝えします。

80名のご支援と28万円の義援金をいただいたことは先にご報告申し上げましたが、9月18日現在更に増え、82名様と2団体、金額は297,500円となりました。（最終金額は32万円を見込んでおります）先週末現地視察へ行ってきましたので最近の状況も併せお伝えします。

### [LOOBからの挨拶]

南国暮らしの会および会員の皆様  
フィリピン・パナイ島イロイロ市で非政府組織（NGO）、LOOBを運営しております小林幸恵と申します。

この度、標記につきまして貴会員渡辺様のお口添えにより皆様に支援金のご協力をお願い致しましたところ、すでに渡辺様からも別途ご報告頂きましたように82名さまと2団体のお申し出を頂き、総額297,500円のご寄付を頂きました。

当該地区で暮らす一家の1ヶ月の平均生活費は約4,000～5,000ペソですから頂いたご寄付金は一世帯の28ヶ月分の生活費に相当します。皆様からお預かり致しました善意のお志は以下のように緊急支援基金の一部として大切に又、有効に活用させて頂きたくご報告させて頂きます。

1. 食糧援助【予算額15万ペソ（約35万円）】  
（1ペソ＝約2.3円）  
被災地の20世帯（約150人）の家庭に対し1週間毎に500ペソ相当の食料を配給しています。

予定期間：9月1日～3ヶ月間

既に拠出した支援額：

9月9日 コメ500ペソ分×20世帯＝  
10,000ペソ

9月16日 野菜・肉・調味料など500ペソ  
分×20世帯＝10,000ペソ

### 2. 重油クリーンアップ

海岸線およびマングローブの重油除去作業。

予定期間：9月1日～未定

既に拠出した支援額：

長靴 300ペソ×10＝3,000ペソ

マスク 400ペソ×10＝4,000ペソ

工業用ゴム手 1,800ペソ

拠出合計額：28,800ペソ

このほか住民側からの要請を受け家畜事業をスタートし、新たな生計手段を応援します。食糧支援配給の写真を団体のホームページ <http://www.loobinc.com/> に9月21日までに掲載いたしますのでご覧いただければ幸いです。

また、ギマラス島の方と実際に話をしました際に以下のようなメッセージを住民の方々から頂きました。

「被災の前は現金収入が乏しくても漁業で自給自足してなんとか食べていました。事故後は政府からの支援はほとんどなく、食料を買うお金がないので汚染された魚を食べて飢えを凌いだこともありました。養鶏などで新しい生計を立てるまではLOOBから食料援助をもらえるので、子供たちにも健康なものを食べさせることができます。日本の支援者の方には本当に心から感謝しています。

以上ご報告させて頂きますと同時に、皆様方の善意に対し厚くお礼申し上げます。末筆になりましたが、会員皆様のご健康と「南国暮らしの会」の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

Love Our Own Brethren Inc.  
LOOBフィリピン事務局 小林幸恵

## 友好団体紹介コーナー

### 財団法人ロングステイ財団

ロングステイ財団は、ロングステイ（海外滞在型余暇）に関するニーズに対応したさまざまな情報の収集・提供やロングステイに関する調査研究、ロングステイヤーのサポート、ロングステイに係るあらゆる活動を行うことを目的として、1992年に通商産業省の認可を受けて設立された公益法人です。

電話 03-3505-4477

FAX 03-3505-4433

E-mail: info@iongstay.or.jp

ホームページ <http://www.lonngstay.or.jp/>  
〒106-0044 港区東麻布1-28-2（第六文成ビル2階）

### チェンマイロングステイライフの会 （CLLクラブ）

世話人代表：中西重利氏・副代表：富谷泰生氏  
事務所：チェンマイオーキッド ホテルに向い  
右50mの空間を挟むブティック商店街の小  
さくかわいい噴水の奥

電話：053-895-002

月～金曜の毎日14：00～16：00の間、役員が  
交代で詰めております。ご来チェの際には是非  
覗いてみてください。オフィスではクラブ員手作  
りの珠玉の名著「チェンマイ生活ガイドブック」  
を、実費でお分けしております。これさえあれ  
ば、チェンマイ暮らし怖いもの無し！

ホームページ <http://cll.thai.jp.net>.

### ワールドステイクラブ（WSC）

本クラブは「世界で作ろうシニアの生きがい」  
をスローガンに、海外旅行、滞在生活を通じて  
精神的な充実と生きがいを求める親睦団体です。

〒162-0827新宿区若宮町37ルクビル2階

電話/FAX：03-3268-2731

E-mail: worldstay@nifty.com

ホームページ：

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

### WSCからのクルーズのご案内

西カリブクルーズ 2月10日～2月20日  
9泊11日

東地中海クルーズ 4月18日～5月3日  
14泊16日

人気のクルーズですのでお早めに申し込み  
をお待ちしております。詳細はリダ-森実 正  
純様までお問い合わせ下さい。

電話&FAX: 03-3357-3457

メール: mori\_wsc@ybb.ne.jp

（編集注：南の会としての取りまとめはいた  
しません。個人で希望の方は直接上記へご  
連絡下さい。）

### THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL（クアラルンプール）日本人会

（住所）No. 2 Jalan 1/86, Off Jalan Taman  
Seputeh, Taman Seputeh, 58000

Kuala Lumpur, Malaysia

（担当者名）事務局長 藤井和道氏

（会の概要）クアラルンプール日本人会は196  
3年に設立されて以来、会員の皆様からの大  
きなご支援をいただきながら、日本人社会の  
相互親睦とに日馬間の友好・親善促進という  
二大目標を掲げ運営しております。これから  
も、たくさんの方々に参加していただけるよ  
う、より一層の施設の拡充と、マレーシア社  
会への貢献活動の強化を図ります。皆さん  
のご入会をお待ちしております。

ホームページ <http://www.jckl.org.my/>

### バンコク日本人会

### バギオ日本人会

### 西豪州日本クラブ

## 寄付のお知らせ

No. 619 鈴木 幸男様 5,000円

囲碁の会（代表 磯崎理事）10,066円

ご寄付がありました。有難うございました。

理事長 宮崎 哲郎

# 部 会 伝 言 板

## 総 務 担 当 よ り

担当理事：No.259 菊地 功

### 会報夏季号以降の総務部門の主な活動

6月30日：規定・必携編集委員会に出席

7月17日：第2回セミナープロジェクト打合せにメンバーとして出席

9月9日：平成18年度第2回理事会

本理事会で、ギマラス島油流出事故の被災島民に今年度予算中の社会貢献事業費から僅かばかりですが寄付金を拠出することとなりました。

前会員から当会等を被告とした損害賠償請求事件が起されたとの連絡が裁判所からありました。

尚、上記 項は現在その対応中であり、当南国暮らしの会としては、その責任は全く無いものと認識しております。

## ホ ー ム ペ ー ジ 委 員 会 か ら お 知 ら せ

### “ H P 委 員 会 構 成 リ ニ ュ ー アル 発 進 ”

H P 委 員 長 No.596 中林 勝

前 H P 委 員 長 No.814 平賀 國廣

昨年8月より新しく構成された「ホームページ委員会」は、南の会のHPをそれまでのものから一新して会員はもとより一般の方に「南国暮らしの会」の活動状況を広報する目的で誕生しました。

より良いHPを作成するために、外部の専門家に依頼してHP作りの技術面のサポートをして頂きながら本年1月1日に「南国暮らしの会ホームページ」がPC上で見られるようになりました。

以来編集、構成の見直しを繰り返し行い現在のやや完成に近いホームページになってきました事は、作る側からより見る側からの反響をお聞きして感じております。常に新鮮さを求められるHP画面を管理していく事は、南の会の組

織上大変困難なことでしたが、本年5月新理事長誕生と同時にHP委員会の構成も今迄になく充実して再出発できました。七人の熱意ある会員がHP委員として集まり、委員会を開催する度にアイデアを出しあって、それぞれの委員が個性ある画面作りに取り組んでいます。

9月の委員会で「もっと南国暮らしの会に相應しい」HP作りをする為に、委員会構成をリニューアルして会員が手作りできるHPを目指しています。幸いNo.996の歌田晃一さんが、まだ現役ながらPC関係のお仕事柄HPに精通していますので、No.735高橋実さん、No.973本橋恵さんと3人がベースとなり、No.665浦野春介さん、No.470細田良子さんも編集、構成面で技量を発揮して益々「南国暮らしの会ホームページ」作りが期待されるところです。

ホームページを見るためにはパソコンを始めていただかないと見ることはできません。会員になってからパソコンを始めた方は大勢いらっしゃると思います。どうか難しく考えずに、身近にいる方でパソコンをしている方に一寸お聞きになって「ホームページを見るだけでいいから」とご相談してください。きっと思ったより簡単にマスターできると思います。パソコンから得られるあらゆる情報はきっとあなたの人生を豊かにします。

## 会 報 部 会 お 知 ら せ

会報部会担当 No.240 菊地 範夫

### 1：投稿、情報提供のお願い

会報の内容は、従来に増して会員の皆様にお役に立つ記事を増やしたいと願っております。会報は会員の皆様からの投稿によって成り立っております。皆様には多くの情報提供者になっていただき会報内容充実にご協力をお願い致します。

## 会報投稿要領

- ・原稿の形式は特に定めておりません。形式自由で、次のような方法でご投稿下さい。  
手書き文書を下記へ郵送  
〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208「南国暮らしの会」会報担当  
メール本文に書いてメールを送信（あるいは書いた文をメール本体に貼り付ける）  
テキストまたはワードで書いてファイルをメールに添付する。
- ・旅行記等寄稿文は分量5000字以下が望ましい。会報1ページは約1600字です。これに表題、写真などを含めると5000字で4ページ位に仕上がります。
- ・写真は下記の方法でお送り下さい。  
デジカメで撮った写真をメールに添付  
プリントした写真を郵送する。  
ワードに貼り付けた写真は品質上望ましくありません。この場合は同じ写真をメールに添付して別に送って下さい。
- ・メールの宛先は会報奥付記載の担当者へお願いします。（新年号は次項参照）

### 2：新年号（1月下旬発行予定）

新年号の発行は1月下旬を予定しています。原稿締め切りは12月10日です。新年号の担当はNo.281 村松 幸子です。

会員の皆様からの多くの投稿を期待しております。新年号原稿のメール宛先は下記の村松宛にお願いします。

skaijmura@mtf.biglobe.ne.jp

### 3：前回夏季号発送作業協力の御礼

発送に関し下記の皆様のご協力を頂きました御礼申し上げます。

前回夏季号会報発送作業協力者（敬称略）

342佐藤さつき、434大野悦子、462小林孝、470細田良子、490平澤佳子、512金子良三、660平方穰、670今野力男、712高田勝弘、999中山恒夫、和代ご夫妻、会報部会員4名  
海外会員宛持参協力者（敬称略）

1106中牟田登、241下元彬人、558伊沢豊、465橋本慧、757笠原茂三郎、341平野雅一

## 編集後記

秋季号会報を本日発行お届けいたします。ご協力いただきました皆様にこの場をお借りいたしまして厚く感謝申し上げます。

今回は手書きの投稿も複数あり、幅広い会員の参加が実現しつつあると感じ、感謝いたしております。今後とも多くの会員に投稿、情報提供、等に参加協力いただけますよう会報部会員として努力いたします。会員皆様のご協力ご支援、積極的な参画を宜しくお願い致します。

今回のお役立ち情報特集「私の大きな失敗、小さな失敗」は3名の方から情報を頂きました。内容は充分でしたが投稿数が想像以上に少なく私の企画失敗として反省いたしております、とても残念に思っております。今後も継続するよう会報部に提案いたしますが認められるか心配です、、、苦笑。会報部会、委員会では協力、連携しながら楽しくやっております。皆様もお気軽に、投稿ご参加下さい。ご意見、ご提案がありましたら投稿先と同じ住所、アドレスに宜しくお願い致します。

240番 菊地 範夫

{表紙の写真提供者}

No.417 木内 登希晴 様

No.732 馬場 章介 様

## 「南国暮らしの会セミナー」参加への呼びかけをお願いします

次頁に掲載しました11月3日開催の「南国暮らしの会セミナー」成功のため知人、友人に主旨をご説明いただきご参加を呼びかけていただきますよう皆様のご協力、宜しくお願い致します。

## "南国暮らしの会" セミナー開催のお知らせ

南国暮らしの会（南の会）はNPO法人の認証を受けて7年が順調に経過し、会員数も千人を超す会に発展してまいりました。今や「ノブレス オブリージ」（高貴な身分には義務が伴う）の発想が求められる時期が来ています。そうした観点で「社会貢献の一環」としてセミナーを東京品川区のゲートシティ大崎・ウエストタワー2Fで開催する事になりました。題して「悠々セカンドライフ」です。

これは私共南の会会員の為でなく、広く一般の方々、世間に対し「こういう人生もありますよ」と云うことを発信する活動です。南の会の主催ではありますが会員を募る目的ではなく、会の宣伝、広報を極力控えて計画、立案した内容で開催いたします。

このセミナーに関心をお持ちの皆様、「南の国で暮らす楽しみ」をお考えの方のセカンドライフ計画に少しでもお役に立つ事を願いプロジェクトを組み準備を進めています。

ぜひ多数の皆様がご参加いただきますようご案内申し上げます。



南国暮らしの会 理事長 宮崎哲郎

### 南国暮らしの会 セミナー "悠々セカンドライフ"

#### 開催のご案内

日時 : 11月3日(金)文化の日

開場午後1時 開演午後1時30分 終演午後4時30分

場所 : ゲートシティ大崎・ウエストタワー2F 南部労政会館 第5~6会議室  
品川区大崎1-11-1 JR山手線大崎駅南口徒歩3分  
尚、当日大崎駅南口より当会会員によるご案内をいたします。

参加人員 : 150名 申し込み順で定員になり次第締め切らせていただきます

参加費 : 500円/1人(資料各種、南の会会報1冊、お飲物はペットボトル緑茶をご用意)

講演者 : ロングステイ・アドバイザー **千葉 千枝子** 先生 (旅行作家)

南国暮らしの会 顧問 **木村 義光** 氏 (ペナン在住)

申し込み方法 : E-mailの方 [kouhou@minaminokai.com](mailto:kouhou@minaminokai.com)

はがきの方 : 〒140-0002 品川区東品川3-22-20-1208

南国暮らしの会 宮崎哲郎 宛て

申し込み者の〒番号 住所 氏名(参加者全員)代表者電話番号、セミナー参加希望と明記して下さい。

E-mailの方には返信で受付票を送信します。はがきの方には受付済はがきを送付します。Mailの方はプリントアウトして、はがきの方は送付したはがきを、当日ご持参して受付に提出してください。

「南国暮らしの会」からのお勧め

**\* 自己責任 \* 納得の上 \* 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

**[編集委員]**

No.240	菊地 範夫	noriokikuchi@hotmail.com
No.465	橋本 慧	ashi176@ybb.ne.jp
No.281	村松 幸子	skaijmura@mtf.biglobe.ne.jp
No. 60	渡辺 義郎	yosi.watanabe@nifty.com
No.732	馬場 章介	s.baba@mbh.nifty.com

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」  
©minaminokai

理事長 宮崎 哲郎

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

<http://www.minaminokai.com/>

NANGOKUNANGOKUNANGOKU



NANGOKUNANGOKUNANGOKU